

京都錦市場商店街の活性化と伝統の維持・継承に関する組織生態分析

井 村 直 恵

【概要】

400年の歴史を誇る京都錦市場商店街が、近年観光地化により急速に再活性化している。錦市場商店街は「京の台所」と呼ばれ、古くから京都の食文化、社会、経済の中心地となってきた。多くの店舗が京都の料亭などに卸売を行い、鮮魚、京野菜、精肉、漬け物やだし巻、練り物等の加工食品などの食料品に関連する商品を販売する約140の専門店で構成される。だが近年、急速な観光地化により、土産物店や外食店が増加し、「京の台所」としてのアイデンティティが失われる危険に直面している。本研究では、戦後の錦市場商店街の組織としての変化を精査し、業態の変化、参入撤退事由などを検討する。調査の結果、2000年以降に急激な変化が起きていたことを確認するとともに、店舗にとっての退出のインセンティブが低く、既存店舗は退出・廃業するのではなく、業態を変化させていることが判明した。

1. 本研究の目的

京都市中京区、四条通の一本北の細い通りを、京都のビジネスの中心街である烏丸通から東に向かって5分ほど歩くと、錦市場商店街がある。ここは、「京の台所」と称される、京都の食文化を代表する商店街である。本研究は、錦市場商店街が戦後どのような変遷を遂げてきたか、組織生態の変化について詳述することを目的とする。

錦市場商店街は、経済産業省のまちづくり77選にも選ばれた活気ある商店街である。毎年、京都の人たちは、お客様を招く際やお正月など特別なハレの場には、普段は近所の商店街で日々の買い物をしている人でも、電車やバスを乗り継ぎ、迎春準備のための食材を買いに錦市場に訪れる。歳末に限らず、近年は、観光シーズンの土日になると地元客のみならず観光客で朝から夕方まで、往来が難しいほどの、お祭りのような人出で混み合っており、大変繁盛している様に見える。

しかし、現在は一見大変繁盛しているように見える錦市場であるが、2000年前後に一時的に客足が落ちたことがある。この頃には、地元顧客の多くが「かつてのにぎわいがなく残念だ」とコメントしていた。錦市場の個店に見解を聞いてみると、やはりその当時客足が落ちたとよく聞く。

近年は、観光地としてガイドブックでも紹介され、テレビの番組で芸能人が訪れる機会も増えた。しかし、筆者には必ずしもマスコミで取り上げられたことのみが錦市場の原動力になったとは思えない。マスコミに取り上げられることによる急激な観光地化には弊害もある。

80年代末のバブル経済の時期、京都では、嵐山などの観光地において、タレントショップの乱立等により、急激な観光地化が進展したことがあった。しかしバブル経済が崩壊すると、それらのテナントのほとんどが撤退し、街がかつての風情を失った上に空き店舗が増えてしまった。嵐山では、京都らしさを取り戻すのに長時間かけて取り組まなければならなかった。

錦市場においても、観光地化によって、同様の課題が発生した。それは画一した観光地化の進展である。貸店舗（テナント）が増え、そのことにわざわざ錦市場で買わなくてもいいような土産物などの従来の錦市場にはみられなかった業態や、店舗が増加した。

錦市場は、商店街再生でよく議論される日本各地にある地元の一般的な商店街ではない。古くは平安時代に記録が残るほど、長い歴史を持ち、京都の経済、食文化の発展において中心的な役割を果たして来た。今日、錦市場が「京の台所」として知られるゆえんである。それゆえに、錦市場が抱える新たな課題は、単純な再生ではなく、画一した観光地化の進展により急速に失われつつある、錦市場が長年伝え残してきた「京の台所」としての営みをいかに残すか、という伝統と刷新の両立である。

観光地化の弊害は、商品の画一化にもつながる危険がある。小松（2007）では、沖縄県那覇市の牧志公設市場での取引を10年以上にわたって観察し報告している。牧志市場は錦市場と同様に、沖縄の地元市民が日々の食材を調達する、沖縄の食文化を代表する市場である。牧志市場では、過去20年間で急速に観光地化が進展した。その結果、かつては魚や豚肉などは、地元の食文化に合ったバリエーションのある食材が販売されていた。しかし、急速な観光地化の進展により、わずか10年の間に、海ぶどう、チラガー、ミミガー、島らっきょうなど日持ちがして観光客へのインパクトの強い商品ばかりが棚積みして販売されるようになった。このことは沖縄の市場が長年有してきた豊かな食文化の継承という側面が犠牲となり、その代償として、修学旅行生や観光客などを起爆剤とする繁栄がもたらされてきたことを意味する。

沖縄牧志市場や錦市場のように、観光客によって繁栄を維持する道の残された商店街や市場は、日本各地の多くの商店街のように、衰退が経営的課題ではない。それとは全く異なる次元での問題ををはらんでいる。錦市場は京都経済にとっても、文化を伝える資産である。歴史的商店街としての京都の文化を次世代に継承して行くことこそが、錦市場が京都において期待される使命なのである。

そこで、商店街活性化と歴史的営みの保存という相反する課題に対する、錦市場の現状を示すことが、本研究の狙いである。

2. 研究の背景

商店街研究には、石原（2006）、新（2012）、を始めとして多くの研究視座が提示されてきた。しかし、一般的な商店街研究の多くが、本研究が分析対象にした、錦市場が抱えている課題を共有するものではない。多くの商店街研究が焦点としているのは、商店街としての機能や、大規模小売店の進出に対抗する為の戦略等、まちづくりの一環としての商店街としての機能の探求であり、シャッター通り化を防ぐ為の方策である。反対に錦市場は現在多くの商店が参入を狙って空店舗を探している状況であり、錦市場は一般の商店街とは全く異なる状況にある。

商店街再生をテーマとして、新（2012）や、西郷（2011）は、実践記録として、政策担当者も巻

き込んでの商店街の再生の可能性とデザイン、交渉過程などを記している。西郷の事例などは、商店街が根本的なリデザインを含めて取り組んだ好事例である。西郷の用いたスキームは、商店街はもともと個人商店の集まりである為、所有関係の管理が困難であり、勢いを失ってしまった商店街組織が一丸となって取り組み、全店舗に新規投資を説得するという、強いリーダーシップを持った人物が変革に大きな役割を果たしてきたことを示す。

本研究が対象とする錦市場を大きく特徴づけるのは、錦市場が京都の歴史的、文化的、社会的発展の中で重要な役割を果たしてきた事であり、経済の中心地であったことである。「京の台所」と呼ばれ、京都を代表する食文化、流通経済における代表性を持つ点は、多くの街の商店街とは趣を異にする。

こうした代表性を持つ商店街や市場のコンテクストの変遷について、小松（2007）は沖縄の牧志市場を対象とした参与観察を実施している。第一牧志公設市場は、沖縄県那覇市の一大観光地である国際通りから、徒歩5分ほどの場所にある沖縄最大の食料品市場である。400年以上の歴史の中で、御所の御用達として御所に納める高級食材を中心として扱ってきた背景を持つ京都の錦市場と異なり、那覇の第一牧志公設市場は、第二次世界大戦の後、米軍が占領していた那覇に戻ってきた人々によって、生活必需品が持ち寄られた闇市を起源とする。1972年に完成した現在の建屋は、戦前の東町市場を模してデザインされている。

1948年に島製品を扱う事を条件として、現在的那覇市松尾2丁目に公設市場として設置されたのが牧志公設市場の起源である。当時は、奄美、沖縄、宮古、八重山には別の政府があり、自由貿易は禁止されていたので、牧志公設市場は沖縄本島の産品を中心に扱っていた。1950年に食料品市場、1951年に雑貨市場と衣料市場の建物が完成し、食料品市場は約1300平方メートルのセメント瓦葺きの平屋の建物であった。

現在、第一牧志公設市場是那覇市が運営し、おおよその業種と販売区画の配置に従って、5つの組合が組織され、各店による要望などの那覇市との交渉は、組合を通して行う。

店の最小単位は、幅が1.2m、高さ1.5mほどの作り付けのショーケースとその背後の空間で構成される。売り場は、平均2.3平方メートルの401コマに分割され、1階の320コマのうち、建物の内部が精肉、鮮魚、漬け物や豆腐等の加工食品の業者が占め、建物を囲むように、野菜、乾物の売り場がある。2階は81コマがあり、多くが食堂になっている。精肉業者の作業場や冷凍室は3階にあり、一般の顧客の立入りは禁じられている。

小松が牧志市場の観察を始めたのは1989年であった。当時、京都大学の大学院生だった小松は40日間にわたって牧志市場内の丸昌ミートという豚肉店で働きながら、沖縄における豚肉の相対販売についての参与観察を行った。2000年に再訪問した際、小松はわずか10年の間に牧志市場が急速に観光地化していることに驚いたと記す。

「2000年に久しぶりに牧志を訪れて驚いた。コマの配置も売っている人もほとんど変わらないのに、商品と買い手はずいぶんとかわっていたからである。目立つ位置におかれてい

る商品は、以前は売り場の炭にひっそりとおかれていたか、もしくはもともと存在しなかった商品である。市場を歩いている客も、以前は地元客が多かったのが、圧倒的に県外からの観光客とおぼしき人が多い。」¹⁾

約10年間に牧志市場で起きた変化の内容として、小松はいくつかの点を指摘している。

まずマクロな変化が、牧志市場を使用している業者の数である。1986年は235業者であった第一牧志公設市場における業者の数は、1990年に230業者、1999年に230業者、1996年に202業者、2002年に180業者と10年間で50業者も減少している。実際には、登録を続けていても営業していない業者や、店舗又貸ししている店舗もある。業種の構成は、業者の数では鮮魚店が精肉店を上回っており、配置図から知る限り、面積でも鮮魚店が精肉店を上回っている。

ミクロな変化としては、店頭の商品構成と売り方の変化である。小松は、2002年の調査において、1990年代における第一牧志公設市場の急速な観光地化は、商品構成以外にも、陳列の仕方や包装技術などに大きな変化をもたらしたと指摘する。商品構成の点では、10年前には存在しなかった「アグー豚」と呼ばれるブランド豚の登場と、海ぶどうという観光客受けするニューヒーローの登場、ラフテー（豚の三枚肉）の煮込み、味付けミミガー（豚耳皮をゆでて味付けしたもの）、チラガー（豚の顔）のスモーク、ベーコンやハム、ソーキやテレビチ（豚足）の煮付けなどの加工食品が増加した。反対に、精肉店では、モモニク、Aローズ、クビニクなど手間がかかったり、顧客の好みに差がある商品は減少した。一方、果物は本土からの観光客に向けて陳列する果物の種類が増えた。陳列の仕方の点では、1980年代始めにはヤマト（本土）産が上等と言われていたが、現在は「シマ」「沖縄」など沖縄産であることを強調する札や、陳列・運搬しやすいパック入りの商品が増えた。人通りの多い通り沿いの鮮魚店は、色とりどりの魚を氷の上に陳列し、いけすには伊勢エビを飼い、「二階食堂で調理してもらえます」「全国発送」という看板を掲げる。これらの変化は、西郷の事例のように誰かがリーダーシップを取ってもたらされた変化ではない。

牧志市場の例は、観光地化というコンテクストに対して商店主が、上記のように適応をしていることを示す。商店主は、観光客に特化することを意図している訳ではなく、観光客を視座に入れながら、軸足は地元客にあるという意識を持っている。

小松が指摘した第一牧志公設市場の観光地化は、「沖縄の台所」としての第一牧志公設市場のアイデンティティが維持されてつつも、店舗構成、商品構成その他様々な側面で市場の変化の側面である。小松はその変化の中で、豊かな食のバリエーションが失われる危険を浮きぼりにした。

それでは、元々「魚市場」であった錦市場は、戦後どの様に変化してきたのだろうか。牧志市場と同様に錦市場でも繁栄の裏で商品の画一化による種類の豊かさの代償という現象は起きているのだろうか。この点につき、店舗構成の変化というマクロな変化をとらえることが本研究の視座である。

店舗構成の変化を捉える上で、本研究は特にハーシュマンによる発言（Voice）と退出（Exit）ア

1) 小松（2007）pp5-6より引用。

プローチに基づいて検討する。ハーシュマンは、組織の業績の悪化の原因は、一般的には製品やサービスの質の絶対的・相対的な低下により生じると述べる。そしてある特定の組織の構成員が自分の属する組織に対して不満を持つ場合、もしくは顧客がある特定の企業によって提供される品質やサービスに不満を持つ場合の行動様式として、Exit（退出）と Voice（発言）の2つの行動パターンがあると述べる。

Exit とは「企業の顧客や組織の構成員が特定企業の製品を購入する事をやめたり、あるいは、成員の幾人かが特定組織を退却」²⁾ する行為を指す。

一方、Voice とは「気力のない不平をこぼす事から激しい抗議に至るまでの程度差がある為に、相当『ごたごたした』概念である。それはスーパーマーケットで見られるような（意見箱への）『無記名』投票であるというよりむしろ、人の批判的意見の明瞭なる発言を意味する」³⁾ ものである。

つまり、特定企業の顧客や特定組織の構成員が、Exit のオプションを行使しようとする場合には、自らが享受するサービスや質の改善要求を、競争市場原理に基づいて行使する。一方 voice とは、民主主義の原理を用いていわば政治的メカニズムを利用して改善を達成しようとする取り組みである。

ハーシュマンは、これら2つの戦略的選択のオプション間でのバランスは、1) 身近な代替品の有用性、2) 買い手の数、3) 商品の耐久性と標準化、4) 苦情を行う事に対する人々の一般的許容性、5) 安価で効果的な苦情の伝達制度の存在、などによって影響を受けると述べる。Exit は難しい調整等を要求しないのに対し、Voice は常に新方向を切り開いていく技術である。そして Voice は追加的調整をコストとして投資する行為であるが、これらのコストを負担してなお Voice をオプションとして選択させる装置として機能するのが Loyalty（忠誠心）であると述べる。

ハーシュマンによれば、Exit に際して、例えば小学校の学区改善において、その学区内に所有権を有する不動産に居住しているなど退出しづらい要因がある場合、賃貸物件に住んでいる子供に対して、学区が気に入らない母親が自らの子供を転校と言う形で退出させるという代替案を選択しづらい。その場合でも金銭的な余裕がある、許容の範囲を超えている、等の場合では、時間がかかりコンフリクトも生じやすい Voice を行う事で改善を図るよりも、自らの望む環境に向けて現在所属する組織から Exit する方が経済合理性に叶っている。それでもなお Voice を行う場合、そのメカニズムとして作用するのが、組織を良くしたいと願う Loyalty（忠誠心）である。組織に対するコミットメントが高い場合には、人々は Exit ではなく Voice をオプションとして選択する。また、総合的に見て自らが所属する組織にとどまる方が経済合理性が高いと判断された場合にも、Exit の選択を選ばず、Voice を選ぶ可能性が高まる。

また、ハーシュマンは、日本の経済的成功をもたらした装置として、Exit よりも Voice というシステムを開発した事が大きいと指摘する。これは、従来の日本的経営における長期雇用制度や年功

2) A.O.Hirschman, *ibid.*, p16. 訳書 p16.

3) A.O.Hirschman, *ibid.*, p16. 訳書 p16.

序列制度が、組織に不満があった場合にでも退職して転職を図るよりも、組織にとどまるオプションを選択させてきたことを背景とする。このように、日本は文化的背景としても、Exit よりも Voice という行動形態を有しており、商店街組織においてもこのシステムをうまく組み込む事ができれば、組織の再生に繋がるであろうと考えられる。

そこで、本研究では、錦市場の戦後を振り返るとともに、商店街における Exit か Voice かを選択させる仕組みとして、1) 所有権の有無、2) 退出の原因に焦点を当て、観光地化という大きな環境変化の中で、Exit と Voice を選択するメカニズムを探ろうと試みる。

3. 研究方法

本調査においては、まず、京都市の住宅地図を遡り、錦市場の地図を作成した。

錦市場は東西 390 メートルの 1 本道である。そこでまず、住宅地図のレイアウトをエクセルファイルに置き換えて、入手可能な最も古い住宅地図のデータを作成した。次に、錦市場の現在の取り扱い品目等を参考にしながら、全部で 14 の業種に分類し、それぞれの店舗を色分けした。

しかしここで問題となったのが、2 点である。1 点目が住宅地図はあまり正確ではなく、毎年表記揺れが発生していた。店主の個人名、屋号が混合されて登場したり、空き家になっていたり、店の位置が微妙にずれたりしていた。京都の建物は「鰻の寝床」と表現されるように、入り口が狭く奥に細長い構造になっていることが多い。これは、江戸時代の課税基準が前面道路との接地幅を基準に決まっていたためである。調査においては、まず、これらを整理するため、住宅地図の内容をエクセルファイルに入力し、各セルに店舗を振り当てて整理した。

2 点目が表記のある店舗でも、業種の判らない店舗も数多く存在した。そのため、錦市場の個店のなかで、特に古くから経営している店舗のご主人や奥様を捜し当て、個別に訪問をして、近辺のお店の変遷についてその背景等も含めて細かくヒアリングをした。中には、昭和 30 年代の雑誌や昭和 40 年代に錦市場が初めて全国放送で放映された NHK の新日本紀行などをわざわざ探し出して、貸して下さるお店も多くあった。また、聞き取り調査をしたお店の方が、別のお店にまで一緒に行って調査の目的を説明し、協力を依頼して下さったことも何度もあった。

これらの資料⁴⁾や聞き取りの内容を参考にしながら、昭和 31 年代以降の錦市場の変遷について、詳細に調査を進めた。調査の過程においては、作成した地図の区分を修正しつつ、何度も聞き取りを重ねた。その結果、住宅地図の表記とは異なり、現在は 1 つの狭い区画に、住宅地図上は 5 つの

4) 『マダム』、鎌倉書房、1981 年、pp66-71.

『太陽』、平凡社、1982 年、pp10-21, pp24-31, pp34-71.

『TOKK』、阪急コミュニケーション、1980 年、pp18-19.

『日旅』、日本旅行、1983 年、pp16-19.

『婦人生活』、婦人生活社、1984 年、pp12-13. などを参照した。

店舗がひしめいているような店舗があったり、屋号と持ち主の名前が混在している場合、空き家ではない店舗が空き家と表記されている場合等もあった。これら1つ1つを整理し、住宅地図と聞き取り調査の内容が異なる場合には、近隣の店舗、商店街組合など複数の店舗に協力をお願いして、昭和40年代、50年代の事を思い出していただき、我々の今できる限りの裏付け調査もした。その上で、住宅地図には表記されているものの、近隣の店舗が存在を覚えていなかったいくつかの店舗については、我々の調査結果を優先して修正した。

以下では、錦市場を6つの区画に区切り、各区画ごとに店舗の変遷を報告する。

昭和31年以降、平成24年（2012年）までの約60年に亘って2・3年ごとに50年間に亘る錦市場の変遷を記述する上で、全体を錦市場を横切る南北の5つの道路ごとに6つのブロック（区画）に分け、それぞれのブロックについて、調査した。

本報告では、西側（高辻通）から第1ブロック（高辻通－堺町通）、第2ブロック（堺町通－柳馬場通）、第3ブロック（柳馬場通－富小路通）、第4ブロック（富小路通－麩屋町通）、第5ブロック（麩屋町通－御幸町通）、第6ブロック（御幸町通－寺町通）と呼ぶこととする。

次に、各ブロックごとに通し番号を付けた。歴史を遡ると、複数の区画において、店舗の間口が統合したり分割したりしている箇所がある。通し番号の基準は、各ブロックごとの現況を優先して、北側、南側別に、ブロックごとに東から番号を振り分けた。現在は1軒だが、同じ間口で過去には数件の小さなお店が存在したり、店を前後に分けて営業したり、店の一角を間借りする形で営業していた店舗も存在する。このような場合には、枝番を振り、西から順にA,B,Cと呼ぶ。

例）現在は1軒だが、かつては3軒の店があった区画の場合[22（現況の区画番号）-A]、[22（現況の区画番号）-B]、[22（現況の区画番号）-C]と呼ぶ。

各地図中の①から⑭までは業種を表わす。①鮮魚、②塩干、③精肉（鶏肉含む）、④卵、⑤青果、⑥果物、⑦乾物、⑧佃煮・惣菜・珍味、⑨漬け物、⑩蒲鉾、⑪ゆば・豆腐、⑫雑穀・米・豆⑬食事処、⑭その他である。

3-1. 第1ブロック

第1ブロックは、錦市場の西側、高倉通と堺町通に挟まれた地域である。以下では、第1ブロック（高倉通りから堺町通り）を北側9区画、南側9区画に分けて順に説明する。

このブロックでは、多くの店舗（区画）が業種を変化させている。高度経済成長期は、その日の食卓に並べるための食材を販売する店が並んでいたが、現在は観光客を狙った日持ちのする商品、店舗が増加している。その理由の1つとして、このブロックは、西に位置する大丸や烏丸四条に近く、交通の便もよく、観光客・地元客ともに往来が多い地区であることも大きく影響する。

[北1-1] 昭和31－38年頃まで、「永寿屋」というお菓子屋があった（図1,2,3）。この時代のお菓子は駄菓子を指すが、今のように袋とじで小分けして駄菓子を販売しているのではなく、グラム単位で値段が付けられていた。通りからは、一見、お菓子屋に見えていた「永寿屋」だが、お店の

奥に入ってみると、ホルモンやレバーなどの肉類も少々販売しているという変則的な商売形態を取っていた。その後、昭和41年には「森食品」が、この区画を購入して参入し、現在に至るまで営業している(図4-24)。「森食品」は豆や粉類を売っていると共に、衣類も併設して販売している。

〔北1-2〕昭和31,32年、この区画には、主に小豆などの卸を行っていた「安井」が入っていたが(図1,2)、昭和34年に肉屋の「大惣」が入る(図3-11)。その後、店主の死去に伴い、昭和63年頃に衣類などを売る「毛糸ユキ」という店舗として、「大惣」の店主夫人が継承する(図12-25)。2.3年前からは、その土地を借り受け「京つけもの西利」が営業している(図25,26,27)。「京つけもの西利」は、以前、〔南1-8〕に存在していた「西利漬物」の分家にあたる。

〔北1-3〕この区画の「田辺屋」は享和3年(1803年)創業で(図1-27)、店主は隣の「山久」店主と兄弟関係にある。創業以来、現在に至るまでこの地で営業しているが、平成17-23年では田辺屋の区画の一部を借り受け、「レッグヤスタ」が営業していた(図23-26)。

〔北1-4〕この区画は、隣の「田辺屋」と兄弟関係にある「山久」が営業している(図1-27)。最初、砂糖や卵などの配達業が中心であったが、後にスーパーのような形態をとるようになり、昭和61年頃からは野菜を中心に販売している。

〔北1-5〕昭和31年から現在に至るまで、大正元年(1912年)創業の「畑野軒」が餅・饅頭を製造販売している(図1-27)。

〔北1-6〕昭和31-43年頃までは「吉岡」が営業していた(図1-6)。しかし、店主の死亡に伴い、その土地を花屋の「佐竹」が買い取って営業する(図7-10)。昭和61年から、〔北1-8〕の「近喜」と場所を入れ替え、「近喜」がこの場所で営業する(図11-20)。ここでいう「近喜」とは、現在第4ブロック(富小路一麩屋町通り)にある「近喜」とのれん分けした店である。平成15年頃から現在に至るまでは、「寺子屋」が営業している(図22-27)。

〔北1-7〕昭和31年の地図から現在に至るまで変わらず、創業約90年になる「鳥豊」が営業している(図1-27)。

〔北1-8〕もともとは、「近喜」がこの場所で営業していた(図1-10)。しかし、昭和61年頃に〔北1-6〕の「佐竹」と場所を入れ替えた事により、「佐竹」が営業することになる(図11-22)。その後、「佐竹」所有の土地で、平成17年頃から雑貨販売の「pulaudeco」がテナントとして入居し、現在に至る(図23-27)。

〔北1-9〕この区画では、蒲鉾屋の「林治」が営業していた(図1-13)。しかし、平成4年頃からその地に、「林治」の経営者がマンションを建てた。1階では〔9-A〕には「スシマス」が(図14-20)、〔9-B〕には「こんなもんじゃ」が土地を借りて営業し始める(図14-27)。〔9-A〕では、平成15年頃から「スシマス」に替わり、「ちんたら」が営業している(図22-27)。「ちんたら」は、店主が死去したことをきっかけとして〔北5-1〕から〔北1-9A〕に移転した。現在は夫人と子息がお店を営んでいる。また、移転後は、古代菓子だけではなく七味も販売している(図22-27)。

〔南1-1〕この一角は、江戸時代、画家の伊藤若冲の実家があった場所である。伊藤若冲の実家は、

大きな青果問屋で、当時 2000 人の丁稚を抱えていたと伝えられる。戦後は、青果店「やま半」が営業をしていた。しかし、収支のバランスが悪化し、平成 17 年頃撤退した（図 1-23）。「やま半」が撤退した後は、おあげや豆腐、食事処の「そや」が入居し、現在に至る（図 24-27）。

〔南 1-2〕 現在まで海鮮物、主にカキを扱う、創業約 90 年の「大安」が店を営んでいる（図 1-27）近年、店舗を 2 区画に分け、半分を食事処として焼きカキなどを提供している。観光客に人気があり、観光客の多いシーズンや土日は行列のできる店になっている。焼きカキのヒットに伴い、「大安」は平成 24 年、イトインの区画を拡張した。

〔南 1-3〕 この区画には、昭和 38 年頃までお茶屋の「宇治屋」があったが（図 1-4）。昭和 41 年に〔南 6-6〕に店舗を移動し、現在もその場所で営業している（図 5-27）。「宇治屋」の後にはスーパーの「厚生会」が入り、平成 17 年にスーパーから薬局のドラッグセガミが入居した。さらに平成 21 年頃からは〔南 1-4〕の「沢榮」の場所を吸収し、現在に至る（図 5-27）。

〔南 1-4〕 この区画では、平成 19 年頃まで乾物の「沢榮」が営業をしていた（図 1-24）。この「沢榮」は昆布屋で昆布・鯉節などを販売していた。4,5 年前に店主の死亡で廃業した。「沢榮」が廃業してからは、左隣の〔南 1-3〕で営業していた「厚生会」がこの区画を吸収している。この区画は、「沢榮」の廃業後、観光客向けの箸屋などが営業をしていたが、平成 24 年にはめがねの「健美堂」が営業している。

〔南 1-5〕 昭和 31-34 年まで鮮魚店「近新」が営業をしていた（図 1-3）。しかし、近新は、錦市場内の他の場所に移転した。「錦大丸」の店主と、「近新」の従業員が兄弟だったことが縁となり、この「近新」の後に「錦大丸」が入居し、現在に至る（図 4-27）。平成 20 年からは、「錦大丸」の奥で、「錦大丸 よし」という食事処ができる（図 25-27）。この店は、「錦大丸」の娘の夫婦が営んでいる。

〔南 1-6〕 昭和 31-38 年まで包装紙類を扱う「岸佐」が営業をしていた（図 1-4）。しかし、配達が多い「岸佐」にとっては、車の出し入れ事が難しい錦通りは不便だったため、三条通りに移転し、錦市場から転出した。そこにお茶屋の「宇治屋」が入り現在まで営業をしている（図 5-27）。

〔南 1-7〕 昭和 31-48 年頃まで、しいたけやかんぴょう等の乾物を扱う「津山」が営業をしていた（図 1-7）。乾物の中には塩干もあった。「津山」はその後、七条通りに転出し、しばらく空き屋になっていた。そこに、和雑貨を扱う「縁屋」が土地を買い参入し、現在も営業を続けている（図 22-27）。縁屋の 2 階部分では、平成 15-17 年頃までは土産物屋「まゆシルク北都」、平成 19 年頃にはカフェ「和カフェベロン」、平成 21 年頃から現在に至るまでは食事処「ひご久」が営業している（図 22-27）。

〔南 1-8〕 昔は花屋の「佐竹」が、テナントとして営業していた（図 1-6）。しかし「佐竹」は錦小路を挟んだ向かい側に移転したため、昭和 48 年頃から、下駄店「丸山」が入った（図 7,8）。この「佐竹」と「丸山」の 2 店舗は、この土地の区画の通りに近い、前の部分だけを借りており、奥では、所有者である中橋氏が住宅の場として使っていた。昭和 56 年頃からは元々の土地の所有者である中橋氏が、「鮎末」という屋号で鮮魚店を営んでいた（図 9-26）。しかし平成 23 年の中橋氏の死亡をきっかけに鮎末は廃業し、平成 24 年には、唐辛子専門店の「おちゃのこさいさい」が営業をしている（図 27）。

図1. 第1ブロック(昭和31年)

	⑭	⑫	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	永寿屋	安井	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	宇治屋	沢榮	近新憐	岸佐	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	①	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑭

図2. 第1ブロック(昭和32年)

	⑭	⑫	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	永寿屋	安井	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	宇治屋	沢榮	近新憐	岸佐	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	①	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑭

図3. 第1ブロック(昭和34年)

	⑭	③	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	永寿屋	大惣	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	宇治屋	沢榮	近新KK	岸佐	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	①	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑭

図4. 第1ブロック(昭和38年)

	⑭	③	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	永寿屋	大惣	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	宇治屋	沢榮	錦大丸	岸佐	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	①	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑬

図5. 第1ブロック(昭和41年)

	④	③	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	森食品	大惣	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	①	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑬

図6. 第1ブロック(昭和43年)

	④	③	⑦	⑭	⑭	①	③	①	⑩	
	森食品	大惣	田辺屋	山久	畑野軒	吉岡	鳥豊	近喜	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	津山	佐竹花店	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	⑭	①	⑭	⑦	⑨	⑭

図7. 第1ブロック（昭和48年）

	⑭	③		⑦	⑭	⑭	⑭	③	①	⑩
	森食品	大惣		田辺屋	山久	畑野軒	佐竹花店	鳥豊	近喜	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	津山	丸山	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	⑦	⑭	⑨	⑭

図8. 第1ブロック（昭和52年）

	⑭	③		⑦	⑭	⑭	⑭	③	①	⑩
	森食品	大惣		田辺屋	山久	畑野軒	佐竹花店	鳥豊	近喜	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	丸山	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭		⑭	⑨	⑭

図9. 第1ブロック（昭和56年）

	⑭	③		⑦	⑭	⑭	⑭	③	①	⑩
	森食品	大惣		田辺屋	山久	畑野軒	佐竹花店	鳥豊	近喜	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭		①	⑨	⑭

図10. 第1ブロック（昭和59年）

	⑭	③		⑦	⑭	⑭	⑭	③	①	⑩
	森食品	大惣		田辺屋	山久	畑野軒	佐竹花店	鳥豊	近喜	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭		①	⑨	⑭

図11. 第1ブロック（昭和61年）

	⑭	③		⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑩
	森食品	大惣		田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭		①	⑨	⑭

図12. 第1ブロック（昭和63年）

	⑭	⑭		⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑩
	森食品	ユキ		田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	林治
北	1-1	1-2		1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭		①	⑨	⑭

図 13. 第1ブロック (平成3年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑩	
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	林治	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 14. 第1ブロック (平成4年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 17. 第1ブロック (平成6年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 16. 第1ブロック (平成7年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 17. 第1ブロック (平成9年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 18. 第1ブロック (平成11年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	

図 19. 第1ブロック (平成 12 年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭	
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こんなもんじゃ	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西利	富美屋	
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑨	⑭	⑭	

図 20. 第1ブロック (平成 13 年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭	
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こんなもんじゃ	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西野俊一（住居）	富美屋	
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑭	⑭	⑭	

図 21. 第1ブロック (平成 14 年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	①	③	⑭	⑭	⑭	
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	近喜	鳥豊	佐竹生花店	スシマス	こんなもんじゃ	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	空	鮎末	西野俊一（住居）	富美屋	
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	①	⑭	⑭	⑭	

図 22. 第1ブロック (平成 15 年)

	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	⑭	③	⑭	⑭	⑭	
	森食品	ユキ	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	佐竹生花店	ちんたら	こんなもんじゃ	
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	やま半	大安	厚生会	沢榮	錦大丸	宇治屋	1階緑屋 2階まゆシルク北都	鮎末	西野俊一（住居）	富美屋	
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	

図 23. 第1ブロック (平成 17 年)

	⑭	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	③	⑭	⑭	⑭	
	森食品	ユキ	レッグヤスタ	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	pulaudeco	ちんたら	こんなもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	やま半	大安	ドラッグセガミ錦店	沢榮	錦大丸	宇治屋	1階緑屋 2階まゆシルク北都	鮎末	西野俊一（住居）	富美屋	
	⑤	⑬	⑭	⑦	①	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	

図 24. 第1ブロック (平成 19 年)

	⑭	⑭	⑭	⑦	⑤	⑭	⑭	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	ユキ	レッグヤスタ	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	pulaudeco	ちんたら	こんなもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B	
南	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	
	錦そや	大安	ドラッグセガミ錦店	沢榮	錦大丸	宇治屋	1階緑屋 2階和カフエベロン	鮎末	西野俊一（住居）	富美屋	
	⑬	⑬	⑭	⑦	①	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	

図 25. 第1ブロック (平成 21 年)

	⑭	⑨	⑭	⑦	⑤	⑭	⑭	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	漬物 西利	レグヤスダ	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	pulau de co	ちんたら	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3		1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3		1-5-A 1-5-B	1-6	1-7	1-8	1-9		1-10
	錦そや	大安	ドラッグセガミ錦店		錦大丸 よし	宇治屋	1階緑屋	2階ひこ久	西野俊一(住居)	鮎末	富美屋
	⑬	⑬	⑭		①	⑬	⑭	⑭	①	⑭	⑭

図 26. 第1ブロック (平成 23 年)

	⑭	⑨	⑭	⑦	⑤	⑭	⑭	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	漬物 西利	レグヤスダ	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	pulau de co	ちんたら	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3		1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A	1-9-B
南	1-1	1-2	1-3		1-5-A 1-5-B	1-6	1-7	1-8	1-9		1-10
	錦そや	大安	ドラッグセガミ錦店		錦大丸 よし	宇治屋	1階緑屋	2階ひこ久	西野俊一(住居)	鮎末	富美屋
	⑬	⑬	⑭		①	⑬	⑭	⑭	①	⑭	⑭

図 27. 第1ブロック (平成 24 年)

	⑭	⑨	⑦	⑤	⑭	⑭	③	⑭	⑭	⑭
	森食品	漬物 西利	田辺屋	山久	畑野軒	寺子屋	鳥豊	pulau de co	ちんたら	こななもんじゃ
北	1-1	1-2	1-3		1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9-A 1-9-B
南	1-1	1-2	1-3		1-5-A 1-5-B	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
	錦そや	大安	ドラッグセガミ・健美堂	錦大丸 よし	宇治屋	1階緑屋	2階ひこ久	おちやのこさいさい	西野俊一(住居)	富美屋
	⑬	⑬	⑭	①	⑬	⑭	⑬	⑭	⑭	⑭

〔南 1-9〕平成 11 年頃まで、漬物の「西利」の本家が営業していた(図 1-18)。現在〔北 1-2〕にある「京つけもの西利」は、ここからのれんわけをした分家である。本家では平成 11 年頃以降には営業を停止し、西野氏が民家として使用していたが、3 年前の死去に伴い、現在は空家になっている(図 20-27)。

〔南 1-10〕創業 60 年を超える「富美屋」は、調査開始時から現在まで継続してこの場所で、営業を続けている(図 1-27)。元々は食事処としてうどん店を経営していた。「富美屋のおうどん」は、京都のうどんを代表する味覚として地元客に人気があり、買い物帰りのご婦人方が自宅に帰る前に少しすいた小腹を満たしたり、甘いものを食べて休憩を取る、人気のある店舗であった。3 年前にうどん屋を錦市場から、堺町通りを北に徒歩 1 分ほどの場所に移し、現在ではバームクーヘンの持ち帰り専門店であり、店頭の一区画で、持ち帰り用のうどんなどを販売する。

3-2. 第2ブロック

現在、この堺町通 - 柳馬場通間には 21 の店が軒を連ねている。この区画には、所有権を持ち、古くから営業を続ける老舗が数多く存在している。錦市場全体の中では、所有権の移転が少ない区画であり、そのため、他の区画に比べると、店舗の参入・退出や業種変化は少ないと言える。中には 1 店舗分のスペースを 2 つの店で分けて営業していたり、反対に 2 店舗分のスペースを 1 店舗が所有し、営業している店もある。

〔北 2-1〕昭和 31 年は和装店「市原」、昭和 34 年には「七味家」と変わっているが（図 28-30）、それ以降の昭和 38 年から現在に至るまで麩店である（図 31-54）。平成 4 年までは麩を販売する「かね満寿」であったが、平成 6 年からは「麩嘉」となった。「麩嘉」も麩を販売する店である。

〔北 2-2〕昭和 31 年から 34 年までは鮮魚店「中内」であった（図 28-30）。昭和 38 年から 48 年は乾物店「浅岡」となっている（図 31-34）。昭和 52 年からはこの区画を半分に分けて鮮魚店「山庄商店」とハムを販売する「仲内」が営業している（図 35-38）。昭和 63 年から平成 23 年までは「山庄商店」単体で営業していた（図 39-53）。平成 24 年からは、平成 23 年まで靴下を専門的に扱っている「レッグヤスダ」が、高倉通 - 堺町通区間からこの区画に移転し、店を分けて営業を行っている（図 54）。

〔北 2-3〕昭和 31 年から 43 年までは漬物店「大安」が営業していた（図 28-33）。昭和 48 年からそば処「山茂登」になり、平成 19 年までは「山茂登」が営業していた（図 34-51）。平成 21 年からは「昌の蔵器土合櫓」となり、現在に至っている。（図 52-54）

〔北 2-4〕創業約 150 年の塩干店「山市」が営業している（図 28-54）。山市はかつては仕出し屋を営業していたが、現在の店主が経営を引き継いだ後は塩干店であり、一部、卸売としてはもなどの焼き魚の提供も行っている。

〔北 2-5〕昭和 31 年から 48 年までは店舗は入らずに住居として使用されていた。もともと魚を販売していたが、昭和 2 年に中央市場に出店したためである（図 28-34）。その後は昭和 56 年まで野菜を販売している「かね松」が使用している（図 35-36）。昭和 59 年頃にパンの「ムーラン」がこの区画の半分を使用し始める（図 37）。その後昆布の「千波」が「ムーラン」の隣で平成 4 年まで営業を行っている（図 38-41）。平成 6 年からはムーランからお菓子の「マルシゲ」に変わっている。平成 13 年から現在までは「マルシゲ」がこの土地で営業している。（図 42-54）

〔北 2-6〕昭和 31 年から昭和 52 年までは「木村」であった（図 28-35）。昭和 44 年に隣接する「丸池」と場所を交換している。「木村」は、江戸時代には「とりろく」という屋号で鮮魚の卸売業であった。戦争後、元「とりろく」の従業員が「丸池」、木村さんの店主の父親（11 代目）の代で、鮮魚「木村」を始めた。11 代目の死去後、6 人で共同相続をしていたが、長男の死去に伴い、現在の店主が木村の看板を継承する事が決まっていたので、場所の交換を行った。「丸池」の廃業に伴い、平成 13 年からは、5-B を使用していた「千波」が店舗を拡大し、この区画を使用することとなり、現在に至っている。（図 36-54）

〔北 2-7〕昭和 31 年から昭和 52 年までは「丸池」が使用していた（図 28-35）。丸池と木村が場所を交換した昭和 56 年からは現在に至るまで「木村」が使用している。（図 36-54）

〔北 2-8〕昭和 31 年から昭和 63 年までは川魚を販売する「鮎末」が所有している（図 28-39）。「鮎末」が移転した後は、向かいの青果店「かね松」が土地を所有する（図 40-49）。平成 17 年からは寿司販売店「伍十」が営業し、現在に至っている（図 50-54）。

〔北 2-9〕昭和 31 年から昭和 43 年までお食事処「まつや」があった（図 28-33）。「まつや」の営業主体は向かいの青果店「かね松」であった。昭和 48 年から一時期、青果店「かね松」がここで営業していた。平成 7 年から平成 11 年に「錦まんじゅう」が営業した後（図 34-45）。平成 17 年から平成 21 年までは空き店舗となっていた（図 46-52）。平成 23 年から現在まではスーパの「しずく」が営業している（図 53-54）。

〔北 2-10〕昭和 31 年から現在に至るまでかね松が、テナントとして貸しており、平成 17 年からは「嵐山ちりめん」が営業している。戦後、北 2-8 から 2-10 に至る広い区画をかね松が購入し、住居として使用しつつ、時には野菜を売ったり、食堂「まつや」を経営したりしていた。鮎末が移転した後は、テナントとして運営している（図 28-54）。

〔南 2-1〕昭和 31 年から平成 7 年まで豆腐の「山弥」であった（図 28-43）。平成 9 年からはパンの「BOLONIYA」になり（図 44-48）、平成 15 年に「グランボロニャ」に屋号を変更している（図 49）。錦市場にイタリアのボローニャという名前を模した屋号のパン屋があるということは、当時、常連客からは、あまりそぐわないものと捉えられていた。平成 17 年にはお菓子の「むらさき」になり、現在に至る（図 50-54）。

〔南 2-2〕昭和 31 年から現在に至るまで塩干や鮎寿司や、日替わりの焼き物を販売する創業約 65 年の「畠中商店」が営業している（図 28-54）。

〔南 2-3〕昭和 31 年から現在に至るまで、鮮魚店「藤庄」が営業している。（図 28-54）

〔南 2-4〕昭和 31 年から惣菜の「平野」が継続して営業してきたが、昭和 61 年から屋号を「錦平野」と変更している。（図 28-54）

〔南 2-5〕昭和 31 年から豆腐の「田中常」である（図 28-37）。昭和 61 年に「錦田中常」と屋号を変更している（図 38-44）。「錦田中常」は、店主の病気に伴い廃業し、平成 11 年から「味どんつき」が営業を開始し、現在に至る。「味どんつき」の営業主体は「打田漬物」である（図 45-54）。

〔南 2-6〕昭和 31 年から現在に至るまで佃煮、創業 127 年の惣菜を販売する「井上」が営業している（図 28-54）。

〔南 2-7〕昭和 31 年から 34 年までは折箱店の「高田商店」だけであったが（図 28-30）、昭和 38 年から同区画を饅頭店「三善屋」、折箱店「高田商店」、漬物店「小野」の 3 軒が営業しており、中でも、「高田商店」が奥まったところで営業していた。昭和 41 年までこの形態で 3 店舗が細長い店舗スペースを有効に利用して、営業を行っていた（図 31-32）。昭和 43 年からは漬物店「小野」が、青果店「河一」に変化した（図 33-40）。平成 4 年に「三善屋」は、コーヒー店「晴海」になった（図 41）。平成

図 28. 第 2 ブロック (昭和 31 年)

	⑭	①	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	市原	中内	大安	山市商店	住居（浅見）	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄商店	平野	田中常	井上	高田商店	かね松商店	渡辺	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑥	⑧	⑦

図 29. 第 2 ブロック (昭和 32 年)

	⑭	①	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	市原	中内	大安	山市商店	住居（浅見）	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄商店	平野	田中常	井上	高田商店	かね松商店	渡辺	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑥	⑧	⑦

図 30. 第 2 ブロック (昭和 34 年)

	⑦	①	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	七味家	中内	大安	山市商店	住居（浅見）	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄商店	平野	田中常	食品井上	高田商店	かね松商店	渡辺	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑥	⑧	⑦

図 31. 第2ブロック (昭和38年)

	⑫	⑦	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	若林	浅岡	大安	山市	住居 (浅見)	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中	藤庄	平野	田中	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	小野 (右)	かね松	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑨	⑤

図 32. 第2ブロック (昭和41年)

	⑫	⑦	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	若林	浅岡 泰昌	大安	山市	住居 (浅見)	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中	藤庄	平野	田中	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	小野 (右)	打田漬物	魚渡辺
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑨	⑤

図 33. 第2ブロック (昭和43年)

	⑪	⑦	⑨	②		①	①	①	⑬	⑥
	かね満寿	浅岡	大安	山市	住居 (浅見)	木村	丸池	鮎末	まつや	かね松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中	藤庄	平野	田中常	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	小野 (右)	打田漬物	かね松
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑨	⑨

図 34. 第 2 ブロック (昭和 48 年)

	⑪	⑦	⑬	②		①	①	①	⑥			
	かね満寿	浅岡	山茂登	山市	住居 (浅見)	丸池	木村	鮎末	かね松			
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10		
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10		
	山弥	畠中	藤庄	平野	田中	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	河一 (右)	打田漬物	かね松	伊勢久	
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑥	⑨	⑥	⑦

図 35. 第 2 ブロック (昭和 52 年)

	⑪	①	③	⑬	②	⑥	①	①	①	⑥		
	かね満寿	山庄商店 (左)	仲内(右)	山茂登	山市	かね松老舗	丸池	木村	鮎末	かね松老舗		
北	2-1	2-2A2-2B	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10		
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10		
	山弥	畠中商店	藤庄	平野	田中	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	河一(右)	打田漬物	かね松	伊勢久	
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨	⑥	⑦

図 36. 第 2 ブロック (昭和 56 年)

	⑪	①	③	⑬	②	⑥	①	①	①	⑥	
	かね満寿	山庄商店 (左)	仲内 (右)	山茂登	山市	かね松老舗	丸池	木村	鮎末	かね松老舗	
北	2-1	2-2A2-2B	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10	
	山弥	畠中商店	藤庄	平野	田中常	井上	高田商店 (中) (左) 三善屋	河一 (右)	打田漬物	かね松	ねおむすび (右) 伊勢 (左) し
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨	⑥
											⑦

図 37. 第2ブロック (昭和59年)

	⑪	①	③	⑬	②	⑭	⑥	①	①	①	⑥	
	かね満寿	山庄商店 (左)	仲内 (右)	山茂登	山市	ムーラン (左)	かね松老舗 (右)	丸池	木村	鮎末	かね松老舗	
北	2-1	2-2A	2-2B	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄	平野	田中常	井上	三善屋 (左)	高田商店 (中)	河一 (右)	打田漬物	かね松	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨	⑥	⑦

図 38. 第2ブロック (昭和61年)

	⑪	①	③	⑬	②	⑭	⑧	①	①	①	⑥	
	かね満寿	山庄商店 (左)	仲内 (右)	山茂登	山市	ムーラン (左)	千波 (右)	丸池	木村	鮎末	かね松老舗	
北	2-1	2-2A2-2B	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10		
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10		
	山弥	畠中商店	藤庄	錦平野	錦田中常	井上	高田商店 (中) 三善屋 (左)	河一 (右)	打田漬物	かね松老舗	伊勢久	
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨	⑥	⑦

図 39. 第2ブロック (昭和63年)

	⑪	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	①	⑥		
	かね満寿	山庄商店	山茂登	山市	ムーラン (左)	千波 (右)	丸池	木村	鮎末	かね松老舗		
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄	錦平野	錦田中常	井上	(左) 三善屋	(中) 高田商店	河一 (右)	打田漬物 (株)	果 かね松老	伊勢久
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨	⑥	⑦

図 40. 第2ブロック（平成3年）

	⑪	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	
北	かね満寿	山荘商店	山茂登	山市	ムーラン (左)	千波 (右)	丸池	木村	かね松	
	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A2-7B2-7C	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄	錦平野	錦田中常	井上	高田商店 (中)	河一 (右)	打田漬物	かね松老舗
	-	-	-	⑧	⑪	⑧	⑭	⑭	⑤	⑨
									⑥	⑦

図 41. 第2ブロック（平成4年）

	⑪	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	
北	かね満寿	山荘商店	山茂登	山市	ムーラン (左)	千波 (右)	丸池	木村	かね松	
	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9
	山弥	畠中商店	藤庄	錦平野	錦田中常	井上	晴海 (左)	高田商店 (右)	打田漬物	かね松老舗
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑬	⑭	⑨	⑥
										⑫

図 42. 第2ブロック（平成6年）

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	
北	麩嘉	山荘商店	山茂登	山市	マルシゲ (左)	千波 (右)	丸池	木村	かね松	
	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
	山弥	畠中商店	藤庄	錦平野	錦田中常	井上	コーヒー 晴海	打田漬物	かね松老舗	中央米穀
	⑪	②	①	⑧	⑪	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫

図43. 第2ブロック (平成7年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	⑭	⑥
	魅嘉	山 庄 商 店	山 茂 登	山 市	マ ル シ ゲ (左)	千 波 (右)	丸 池	木 村	か ね 松	錦 ま ん じ ゆう	か ね 松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
	奥 村 田 辺	畠 中 商 店	藤 庄	平 野	錦 田 中 常	井 上	晴 海	打 田 漬 物	か ね 松 老 舗	中 央 米 穀	
	⑭	②	①	⑧	⑪	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図44. 第2ブロック (平成9年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	⑭	⑥
	魅嘉	山 庄	山 茂 登	山 市	マ ル シ ゲ (左)	千 波 (右)	丸 池	木 村	か ね 松	錦 ま ん じ ゆう	か ね 松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	B O L O N I	畠 中 商 店	藤 庄	平 野	錦 田 中 常	井 上	コ ー ヒ ー 晴 海	打 田 漬 物	か ね 松 老 舗	中 央 米 穀	
	⑭	②	①	⑧	⑪	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図45. 第2ブロック (平11年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①	⑥	⑭	⑥
	魅嘉	山 庄	山 茂 登	山 市	マ ル シ ゲ (左)	千 波 (右)	丸 池	木 村	か ね 松	錦 ま ん じ ゆう	か ね 松
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	B O L O N I	畠 中 商 店	藤 庄	平 野	味 ど ん つき	井 上	コ ー ヒ ー 晴 海	打 田 漬 物	か ね 松 老 舗	中 央 米 穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図 46. 第2ブロック (平成 12 年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	①			⑭
	麩嘉	山庄	山茂登	山市	マルシゲ (左)	千波 (右)	丸池	木村	空	空	錦まんじゅう
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	B O L O N I	畠中商店	藤庄	平野	味どんつき	井上	プチラパン	打田漬物	かね松老舗	中央米穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図 47. 第2ブロック (平成 13 年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧		①			⑭
	麩嘉	山庄	山茂登	山市	マルシゲ	千波		鮮魚 木村	空	空	錦まんじゅう
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	B O L O N I	畠中商店	藤庄	平野	味どんつき	井上	プチラパン	打田漬物	かね松老舗		中央米穀
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥		⑫

図 48. 第2ブロック (平成 14 年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①			⑭	
	麩嘉	山庄	山茂登	山市	マルシゲ	千波		鮮魚 木村	空	空	錦まんじゅう
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	グラン ポロ ニャ	畠中 商店	藤庄	錦平 野	味どん つき	佃煮 おかず 井上	ブチラ パン	打田 漬物	かね松 老舗		中央米 穀
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥		⑫

図 49. 第2ブロック (平成15年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧		①	⑬					
	魅嘉	山庄	山茂登	山市	マルシゲ	千波		木村	2F 万象	房錦ガレージ	所八百屋の台	2子世紀かね松	菓のおや水	1F 弁天さ
北	2-1	2-2		2-3	2-4	2-5A2-5B		2-6	2-7	2-8	2-9	2-10		
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A		2-7B	2-8	2-9	2-10		
	グランボロ ニヤ	畠中商店	藤庄	錦平野	味どんつき	佃煮おかず井上	プチラパン		打田漬物		かね松老舗	中央米穀		
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬		⑨		⑥	⑫		

図 50. 第2ブロック (平成17年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧	①	⑧		⑭	
	麩嘉	山庄	山茂登	山市	まるしげ	千波	木村	伍十	空	嵐山ちりめん	
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	むらさき	畠中商店	藤庄	錦平野	味どんつき	井上	プチラパン	打田漬物	かね松老舗	中央米穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図 51. 第2ブロック (平成19年)

	⑫	①	⑬	②	⑭	⑧		①	⑧		⑭
	麩嘉	山 庄	山 茂 登	山 市	ま る し げ	千 波		木 村	伍 十	空	嵐 山 ち り め ん
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	む ら さ き	畠 中 商 店	藤 庄	錦 平 野	味 ど ん つ き	井 上	プ チ ラ パ ン	打 田 漬 物	か ね 松 老 舗		中 央 米 穀
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑥	⑫	

図 52. 第 2 ブロック (平成 21 年)

	⑫	①	⑭	②	⑭	⑧		①	⑧		⑭
	麩嘉	山庄	昌の蔵器土合 燦	山市	まるしげ	千波		木村	伍十	空	嵐山ちりめん
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	むらさき	畠中商店	藤庄	錦平野	味どんつき	井上	まつむら	打田漬物	かね松やお屋	中央米穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑬	⑫	

図 53. 第 2 ブロック (平成 23 年)

	⑫	①	⑭	②	⑭	⑧		①	⑧	⑭	⑭
	麩嘉	山庄	昌の蔵器土合燦	山市	マルシゲ	千波		木村	伍十	しずく	嵐山ちりめん
北	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A	2-7B	2-8	2-9	2-10
	むらさき	畠中商店	藤庄	錦平野	味どんつき	井上	まつむら	打田漬物	かね松やお屋	中央米穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬	⑨	⑬	⑫	

図 54. 第 2 ブロック (平成 24 年)

	⑫	①	⑭	⑭	②	⑭	⑧		①	⑧	⑭	⑭	
	麩嘉	山庄（左）	レッグヤスタ （右）	昌の蔵器土 合燦	山市	マルシゲ	千波		鮮魚 木村	伍十	しずく	嵐山ちりめん	
北	2-1	2-2A	2-2B	2-3	2-4	2-5A	2-5B	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	
南	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7A		2-7B		2-8	2-9	2-10
	むらさき	畠中商店	藤庄	錦平野	味どんつき	井上	まつむら		打田漬物		かね松やお屋 の二かい	中央米穀	
	⑭	②	①	⑧	⑫	⑧	⑬		⑨		⑬	⑫	

4年に青果店「河一」が移転し、平成6年には「高田商店」も廃業し、「晴海」だけになった(図41-42)。現在、この区画は晴海ビルとなっているが、錦市場に接地面には店舗スペースはなく、小道になっていて、少し奥まったところにある晴海ビルに繋がっている。晴海ビルでは、平成13年から19年まではフランス料理の「プチ・ラ・パン」に(図46-51)、平成21年から現在はイタリア料理の「まつむら」が、錦市場に看板を掲げて営業を行っている。(図52-54)

[南2-8] 昭和31年から昭和38年までは青果店「かね松」が営業していた(図28-31)。その後は現在に至るまで、漬物を販売する「打田漬物」が営業している。「打田漬物」は、平成9年からは南2-7-Cまで店舗を拡張している。(図32-54)

[南2-9] 昭和31年から昭和41年までは焼き魚の「渡辺」があったが(図28-32)、昭和43年から「かね松」がこの区画で営業している。平成21年からは、観光客を対象とした食事処を2階に設置して、「やおやの2かい」として営業している(図33-54)。

[南2-10] 昭和31年から平成3年まで昆布の「伊勢久」がこの区画で営業していた(図28-40)。途中、昭和56年に「伊勢久」の一部をスペースを借受け、おむすびを販売する「みしね」があった(図36)。「伊勢久」は、良い昆布が取れなくなったことと、店主の高齢化を理由として、平成3年に廃業した。平成4年からは「中央米穀」となり、現在に至る。(図41-54)

3-3. 第3ブロック

以下では、第3ブロック(柳馬場通から富小路通)を北側、南側合計で36店舗が営業している。以下では、それぞれを16区画に分けて順に説明する。第3ブロックは、錦市場のほぼ中心地にあり、東西の店舗を行き来する人々の往来が多いブロックである。近年では、特に土日や観光シーズンなどは多くの人で溢れかえって渋滞することもあり。この地区は、権利関係が複雑だったり、店舗の入れ替えが頻繁に起きている。しかし、鮮魚店に限っては、比較的店舗の入れ替えが少ないブロックである。

[北3-1] この区画には、平成13年まで「武田市」という屋号の洋服店があったが(図55-75)、店主の体調不良に伴い、娘の嫁ぎ先へ店舗を売却した。娘の嫁ぎ先が呉服店だったため、平成15年から現在まで「かざり錦」という屋号で観光客に向けた洋服、小物、京土産などを販売している(図76-81)。

[北3-2] この区画には昭和31-41年は、天ぷら屋「瀬口」(図55-59)、それから平成7年までは、平成23年まで第6ブロックに本店を持っていた鶏肉屋「鳥長」の西店(図60-70)、平成7年以降現在までは、「佐竹生花店」という屋号の花屋が奥行き広い店舗をかまえている(図71-81)。「佐竹生花店」はこの区画に移転してくるまで、東の第1ブロックにも店舗を持っていたが、店舗によって扱っている花の種類が違っていた。しかしそれは複雑であるとのことで、平成7年に店舗を1つに統合した。

〔北 3-3〕〔北 3-4〕この区画には、「丸亀蒲鉾」と「丸常蒲鉾」という屋号の蒲鉾屋が 2 軒並んでいる（図 55-81）。共に「丸福」という蒲鉾屋がのれん分けをしてできた店舗で、先代が丸福から受け継いだ土地を分け、創業 50 年以上もの長い間、隣接して営業している。本家の「丸福蒲鉾」は、七条七本松下ルに店舗があったが、火災にて消失した。

〔北 3-5〕この区画には戦後から錦市場で青果店を営む青果店「池政」があった。「池政」は、料理屋など卸の顧客を中心とした顧客構成であったため、バブル崩壊後、多くの料亭・料理旅館などが閉店した事により、青果店だけでの営業が厳しくなった。そのため、平成 14 年頃から錦市場に接する場所で青果販売をし、店の奥ではおばんざい屋という形態での営業を始めた。平成 24 年からは店舗を改装し、従来、店の奥で営んでいたおばんざい屋を「いけまさ亭」として夜間営業も行う食事処とし（図 55-81）、錦市場から奥まった場所に店舗を設置した。錦市場に接する場所はテナントとし、現在「七味屋」が入居して営業している。

〔北 3-6〕この区画では、わずかなスペースでえびを小売販売していた「京栄」という屋号の店舗と、洋服を主に販売している「ほそかわ洋品店」という屋号の店舗が、昭和 52 年までは 2 軒並んで営業していた（図 55-62）。「京栄」の経営状況が良好で、小売販売をやめ卸一本にしたことにより、平成 52 年に錦店を撤退、それ以降は「ほそかわ洋品店」が営業スペースを拡張し、営業している（図 63-81）。

〔北 3-7〕この区画は、現在の鮮魚店「北治商店」の区画を、昭和 41 年までは 2 店舗に分け、「北治商店」と「高木」という屋号の簀屋が並んで営業していた（図 55-59）。高木の区画は、元々〔北 3-10〕にある「椿家」の当時の店主、北川氏所有の土地であったが、北川氏が戦時中、疎開している間に又貸し等で権利関係が複雑になり、いったん契約を解除し、本区画を「北治商店」に売却した。それ以降、この区画は、「北治商店」1 店舗で現在に至る（図 60-81）。

〔北 3-8〕この区画は、錦市場でも歴史の長い店舗の 1 つであり、創業約 200 年、現在の店主で 8 代目の「津乃利」という屋号の鮮魚店が現在まで営業し（図 55-81）、鮮魚や炭火で焼いた魚を販売している。店の奥を少し覗くと、炭火で焼いている様子を見ることができる。また、「津乃利」は、この区画以外にも〔南 3-9, 10, 11〕の区画も所有し、テナントにしている。さらに、「津乃利」は、以前錦市場の南裏側で、料理旅館を経営していた。⁵⁾

〔北 3-9〕この区画では、「サカモトコロッケ」という屋号のコロッケ店と、「魚力」という屋号の焼魚店の 2 軒が、平成 21 年まで店を分けて営業していた（図 55-79）。「サカモトコロッケ」の店主の死去に伴い、「魚力」が「サカモトコロッケ」の区画まで、店舗を拡張した。「魚力」は、現在の錦市場で唯一の焼魚専門店であり、夏ははも、冬はタイなど、多くの焼魚が威勢良く店頭に並んでおり、歳末は尾頭付きの鯛を求める人で大変繁盛する。

〔北 3-10〕この区画は、昭和 35 年頃までは「椿家」という屋号の油屋と「棚橋」という屋号の陶

5) 詳細は〔南 3-10〕参照。

器屋の2店舗が、区画を分け合って営業していた(図55-57)。「北3-8」の区画と同様に、この区画も戦時中に権利関係が複雑になり、「棚橋」の契約は、「椿家」の店主北川氏から第三者を経た又貸しの形態になっていた。「椿家」の店主北川氏は、又貸しを理由に棚橋に対する賃貸借契約を打ち切り、それ以降は「椿家」が単独でこの区画で店を構えている(図58-81)。「椿家」は、昭和43年までは油を販売していたが、昭和43年以降は、油は卸売のみに限定し、豆類の販売に業種を転換した。その理由は、錦小路を挟んで正面で、豆類を販売していた「奥崎商店」が小売を辞め、卸売一本にし、錦市場から撤退したことによる。京都市伏見区上烏羽に移転した、「椿家」の商品仕入れ先は、この頃から現在まで変わらず「奥崎商店」である。

〔北3-11〕この区画は、昭和5年創業の京漬物専門店「梶侶」が、この区画を「梶侶北店」として現在まで営業している(図55-81)。錦市場内に本店、北店、東店と3店舗構えており、本店はここ北店から錦小路を挟んですぐ、南西の方向にて営業している。店頭では、伝統ある京漬物が豊富に並べられている。北店の区画は本店に比べて間口が狭く、主として小売りを中心に営業している。そのため、本店の店頭で並べられている商品に比較すると、より小さな単位に小分けにしたパック等がおかれている。錦市場の店舗では、同じ店舗でもこのように少しずつ差別化することにより、同じ店が狭い地域に共存しつつ、互いを補完する機能を有している。

〔北3-12〕この区画は、海産珍味を販売していた「津之友商店」という屋号の店舗が平成4年まであり(図55-68)、海産珍味は珍しく、多くの人々が立ち寄っていた。しかし、代替わりして父親から経営を引き継いだ経営者家族の放漫経営により経営が傾き、最終的には店舗と土地は銀行の担保物件として差し押さえになった。津之友倒産後、テナントとして、「美術工芸コレクション」(図69-70)、「1,000円ショップ」(図71-79)、「錦まるん」と営業者、屋号が変遷する(図80, 81)。現在の「錦まるん」は、「舞扇堂」という菓子や雑貨を販売する企業の直営店であり、錦市場の他にも、祇園や東山の二年坂など、京都の観光地に支店がある。

〔北3-13〕この区画は、創業昭和3年、現在3代目の「三木鶏卵」という屋号のだし巻き屋が、創業以来、同じ場所で継続して営業している(図55-81)。少し店舗をのぞくと、だし巻きを焼いている様子を通りからでも眺めることができる。近年は、観光客に向けたあんぱんなどの店頭販売も行っている。

〔北3-14〕この区画は、昭和26年から現在に至るまで、「近新」という屋号の卸売専門の鮮魚店が営業している(図55-81)。近新は、卸売専門の業者であるため、朝早くに店頭を通りかかると、氷のいっぱい詰まったトロ箱が山積みされている。店舗は奥行きも広く、大きな水槽もあり、中央では多くの店員が行き来し、朝の錦市場らしい活気を感じたり、手際よく魚をさばいている様子を、通りからでもかいま見ることができる。卸売専門であるという特性から、閉店時間も大変早い。また、過去には錦市場内に現在の本店と中店、東店の3店舗を構えている時期もあった。それらの店舗はいずれも親戚関係が経営していた。現在は〔北3-14〕の1店舗のみである。

〔北3-15〕ここでは70年以上錦市場で店を構え、現在で3代目の「田中鶏卵」という屋号のだし巻き屋が営業している(図55-81)。10年ほど前に改装し、通りからもだし巻きを焼いている姿が見

えるような造りに改装した。そのため、足を止めて見ていく人や、写真に収める外国人や観光客も多い。

〔北 3-16〕ここでは「鳥清」という屋号の鶏肉屋が、創業以来 100 年以上店を構えている（図 55-81）。朝に「鳥清」の前を通ると、店の中央で、鳥をさばいている様子を直接見ることができる。近年は、ツイッターなどでの広報活動も行っている。2012 年 7 月 28 日時点で、フォロワーの数が 82,297 アカウントである。2010 年年末は約 3 万アカウント、2011 年 6 月半ばは、約 6 万アカウントであった。最近では錦市場の店頭での販売だけでなく、インターネットを通じて全国発送での販売にも力を入れ、販路を拡大している。

〔南 3-1〕「木村」という屋号の精肉店が昭和 31 年から平成 6 年まで営業していた（図 55-69）。この店は、錦市場では珍しく牛肉店であったため、いつもお客さんが行列を作っていた。「木村」は錦市場以外にも店舗を所有していたが、錦市場にある店舗を本店としていた。平成 6 年に店主が死去した際、相続対策で店舗は売却された。平成 7 年に、「ひかり薬局」という屋号の薬局になり、平成 17 年頃まで営業していた（図 70-77）。平成 19 年になって、「元蔵」という屋号の京の旬の食材を扱った夜間営業も行う食事処が営業を開始し、現在も営業している（図 78-81）。

〔南 3-2〕明治 43 年に創業した「本源」という屋号の塩干を扱う店舗が、昭和 31 年から平成 24 年現在まで営業している（図 55-81）。創業以来、北海道根室産の本紅鮭や、島根県浜田産笹かれいなど、産地にこだわった店主自慢の商品が並べられている。

〔南 3-3〕昭和 26 年に創業した「近新」という屋号の鮮魚を扱う店舗が昭和 31 年から昭和 59 年まで営業していた（図 55-64）。近新については、前述したが、錦市場内に 3 店舗あった時もあり、この区画の「近新」は「中店」と呼ばれていた。現在は第 3 ブロックの〔北 3-14〕の区画に全店舗統合して営業している。昭和 61 年に入り、「近新」の従業員のうちの 1 人が独立し、ここで「岡本商店」という屋号の鮮魚店を営業し始め、平成 13 年頃まで営業していた（図 65-75）。「岡本商店」の店主の死去に伴い、平成 15 年から「魚重」という屋号の琵琶湖産の鮒ずしやなれずし（鯖・ハス・鮎）、琵琶湖名産つくだに（モロコ・鮎・ゴリ）などを扱う店舗が、現在まで営業している（図 76-81）。

〔南 3-4〕昭和 22 年に創業した「池鶴」という屋号の果物専門店で、昭和 31 年から平成 24 年現在まで営業している（図 55-81）。この店は、錦市場内で唯一、果物を専門に扱うお店である。現在は、食べ歩き用に、果物がカットされた状態で売られていたり、店頭でフレッシュな果物から目の前で作るジュースを販売している。

〔南 3-5〕戦後から昭和 36 年が餅屋（屋号不明）で（図 55-57）、昭和 37、38 年が花屋（屋号不明）であった（図 58）。昭和 38 年になり、南 5-9 にある明治 45 年に創業した「のとよ」という屋号の川魚専門店の西店として営業を始め、平成 24 年現在まで営業している（図 59-81）。主にうなぎを中心として、コイやゴリなど川魚の焼き魚や煮魚などの加工品を売っている。

〔南 3-6〕昭和 10 年に創業した「島本商店」という屋号の乾物を扱う店舗で、「島本商店」は錦市場内に 2 店舗あった時もあり、この区画の店舗は、平成 12 年まで営業していた（図 55-73）。2 店舗あ

た時期には、この区画の店舗を本店としていた。しかし、もう1つの店舗と売上の額が同程度であったことや、住み込みで働いていた従業員（責任者）の死亡などの理由から、現在、営業している区画（南4-9）に店舗を統合した。島本商店の移転後、平成13年から「錦 花つね」という屋号の生花を扱う店舗が「島本商店」から本区画を借り受け、営業を始め、現在まで営業している（図74-81）。

〔南3-7〕「錦屋」という屋号のスーパーが、昭和31年から平成11年まで営業していた（図55-73）。しかし、店主が事故で急逝し、跡継ぎの息子は米国留学していて跡を継がなかったため、店舗を売却し、廃業した。平成13年に入り、「もちつきや」という屋号の餅専門店が営業を始め、平成24年現在も営業している（図74-81）。元々スーパーだったため、奥行きも広く、現在は店頭で焼き餅を販売し、奥は食事処として観光客でにぎわっている。

〔南3-8〕昭和31年当時、「島幸商店」という屋号の塩干を扱う店舗が所有していた土地で、明治45年に創業した「大國屋」という屋号で川魚やうなぎを扱う店舗と、「島幸商店」という屋号の塩干を扱う店舗が、この区画を分けて、昭和31年から昭和63年まで営業していた（図55-66）。「大國屋」は平成24年に至るまで同じ場所で営業を続けているが、「島幸商店」は昭和63年に廃業した。平成4年以降は、「河一」という屋号の青果店が営業を始め、平成24年まで営業を続けている（図68-81）。

〔南3-9〕昭和5年に創業した「榎侶」という屋号の漬物屋が、昭和31年から平成24年までここに本店を置いている（図55-81）。「榎侶」はこの区画以外にも錦市場内に2店舗（北3-11、南5-10）あるが、ここが本店であり、旬の味わいを感じられるように、試食品も店頭に置いている。斜め向かいの〔北3-11〕にも小さな店舗があるが、本店は奥で製造を行うと同時に、卸売を中心として役割分担している。営業日もずらして設定されている。また、本店の店頭には、奈良漬が店頭販売されているが、これは「榎侶」の前身が造り酒屋だったことにも由来する。昭和5年、先代社長が酒蔵から出る酒粕を利用し、当時贅沢品だった奈良漬を作り、京漬物製造販売業として開始したのが京つけものとしての榎侶の起源である。

〔南3-10〕「奥崎商店」という屋号の豆類を扱う店舗が昭和31年から昭和42年まで営業していた（図55-59）。「奥崎商店」は富小路高辻に住居があり、上鳥羽に商品を保管する倉庫を所有していた。しかし、その後「奥崎商店」は卸売専業とすることを決め、この区画での小売から撤退した。昭和43年からは、鮮魚店「津乃利」（北3-8）が、経営する旅館「湖月」の非常出入口として使用していた。その後、「津乃利」の南店として塩干を扱う店舗が営業を始め、平成17年頃まで営業していた（図77）。現在は休業し、錦市場で秋の鍋祭り等を行う際のイベントスペースとして活用されている。店頭には「津乃利南店」という看板が掲げられている。

〔南3-11〕「津之友商店」という屋号の海産物を扱う店舗が昭和31年から平成9年まで営業していた（図55-71）。しかし、昭和43年に入り、この区画は2つに分けられ、西側で「津之友商店」、東側で「伊勢屋」という屋号の鮮魚店が経営していた（図60-71）。「津之友商店」は店主の死去に伴い、娘達が家督と屋号を継承したが、放漫経営や遊興の結果、ついに津之友は廃業した。その後、観光

図 55. 第3ブロック（昭和31年）

	⑭	⑧	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	⑭	①	⑧	⑧	⑭	⑭	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
	武田	瀬口	丸亀	丸常	池政	紅葉	細川	北治	高木	津乃利	坂本	魚力	椿屋	棚橋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
	木村	木源	近新	池鶴	餅	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	奥崎商店	津之友商店	三京水産	大島	錦松竹亭	松華	小林			
	③	②	①	⑥	⑭	⑦	⑭	①	①	⑨	⑫	①	②	⑭	③	①	⑭			

図 56. 第3ブロック（昭和32年）

	⑭	⑧	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	⑭	①	⑧	⑧	⑭	⑭	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
	武田	瀬口	丸亀	丸常	池政	紅葉	細川	北治	高木	津乃利	坂本	魚力	椿屋	棚橋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
	木村	木源	近新	池鶴	餅	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	奥崎商店	津之友商店	三京水産	大島	錦松竹亭	松華	小林			
	③	②	①	⑥	⑭	⑦	⑭	①	①	⑨	⑫	①	②	⑭	③	①	⑭			

図 57. 第3ブロック（昭和34年）

	⑭	⑧	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	⑭	①	⑧	⑧	⑭	⑭	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
	武田	瀬口	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	高木	津乃利	坂本	魚力	椿屋	棚橋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16				
	木村	木源	近新	池鶴	餅	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	奥崎	津之友商店	三京水産	大島	錦松竹亭	松華	小林			
	③	②	①	⑥	⑭	⑦	⑭	①	①	⑨	⑫	①	②	⑭	③	①	⑭			

図 58. 第3ブロック (昭和38年)

	⑭	⑧	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	⑭	①	⑧	⑧	⑭	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
北	武田	瀬口	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	高木	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	花屋	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹悟	奥崎商店	津之友商店	三京水産	大島	中川	松華	小林		
	③	②	①	⑥	⑭	⑦	⑭	①	①	⑨	⑫	①	②	⑭	③	①	⑭		

図 59. 第3ブロック (昭和41年)

	⑭	⑧	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	⑭	①	⑧	⑧	⑭	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
北	武田	瀬口	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	高木	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹悟	奥崎商店	津之友商店	三京水産	大島	中川	松華	小林		
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨	⑫	①	②	⑭	③	①	⑭		

図 60. 第3ブロック (昭和43年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16		
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16		
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	松華	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	①	⑭

図 61. 第3ブロック (昭和48年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③	
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清	
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	松華	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	①	⑭	⑭

図 62. 第3ブロック (昭和52年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	①	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③	
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	京栄	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清	
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	松華	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	①	⑭	⑭

図 63. 第3ブロック (昭和56年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③		
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹侶	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	松華	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	①	⑭	⑭

図 64. 第3ブロック (昭和59年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③		
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹倍	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	近新	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹倍	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	三善屋	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 65. 第3ブロック (昭和61年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③		
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	三善屋	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 66. 第3ブロック (昭和63年)

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③		
北	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	島幸商店	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	三善屋	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	①	⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 67. 第3ブロック（平成3年）

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③		
	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	木村	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	空	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	中川	三善屋	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①		⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 68. 第3ブロック（平成4年）

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑧	⑧	①	⑧	③
	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	津之友商店	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16	
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16	
	木村	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋 河一	樹悟	空	津之友商店 伊勢屋	三京水産	大島	むら瀬	三善屋	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	① ⑤	⑨		① ①	②	⑭	③ ⑭	⑭	⑭	⑭

図 69. 第3ブロック（平成6年）

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③	
	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	美術工芸コレクション	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清	
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16		
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16		
	木村	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋 河一	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀬	花つね	河善	小林
	③	②	①	⑥	①	⑦	⑭	① ⑤	⑨		① ①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭	

図70. 第3ブロック（平成7年）

	⑭	③	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	鳥長西店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	美術工芸コレクション	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9		3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16		
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	河一	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	⑤	⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図71. 第3ブロック（平成9年）

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	河一	樹悟	空	津之友商店	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	⑤	⑨		①	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図72. 第3ブロック（平成11年）

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	河一	樹悟	空	空	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	⑤	⑨		①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭	⑭

図 73. 第3ブロック (平成 12 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	島本商店	錦屋	大國屋	河一	樹悟	空	空	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑦	⑭	①	⑤	⑨			①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 74. 第3ブロック (平成 13 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大國屋	河一	樹悟	空	サンセリテ	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 75. 第3ブロック (平成 14 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑤	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
	武田	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	岡本商店	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大國屋	河一	樹悟	空	サンセリテ	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	小林
	⑭	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 76. 第3ブロック (平成 15 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
北	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹侶	空	かりかり博士	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	花つね	河善	訪臼庵
	⑭	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	①	②	⑭	③	⑭	⑭	⑭

図 77. 第3ブロック (平成 17 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
北	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	ひかり薬局	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹侶	津乃利南店	かりかり博士	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	旬味屋	河善	訪臼庵
	⑭	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨	①	⑭	①	②	⑭	③	⑧	⑭	⑭

図 78. 第3ブロック (平成 19 年)

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
北	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹侶	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	元蔵	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹侶	空	かりかり博士	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	旬味屋	河善	訪臼庵
	⑬	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	①	②	⑭	③	⑧	⑭	⑭

図 79. 第3ブロック（平成 21 年）

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③		
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	坂本	魚力	椿屋	樹悟	千円ショップ	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	元蔵	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹悟	空	かりかり博士	伊勢屋	三京水産	大島	むら瀨	旬味屋	河善	沓白庵
	⑬	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	①	②	⑭	③	⑧	⑭	⑭

図 80. 第3ブロック（平成 23 年）

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③			
北	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	細川	北治	津乃利	魚力	椿屋	樹倍	錦まるん	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	元蔵	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹倍	空	かりかり博士	京月待庵	三京水産	大島	むら瀨	旬味屋	河善	沓白庵
	⑬	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	⑭	②	⑭	③	⑧	⑭	⑭

図 81. 第3ブロック（平成 24 年）

	⑭	⑭	⑩	⑩	⑬	⑭	①	①	⑧	⑫	⑨	⑭	⑧	①	⑧	③			
北	かざり錦	佐竹生花店	丸亀	丸常	池政	七味屋	細川	北治	津乃利	魚力	椿屋	樹悟	錦まるん	三木鶏卵	近新	田中鶏卵	鳥清		
	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
南	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16			
	元蔵	木源	魚重	池鶴	のとよ西店	花つね	もちつきや	大国屋	河一	樹悟	空	かりかり博士	京月待庵	三京水産	大島	むら瀨	旬味屋	河善	沓白庵
	⑬	②	①	⑥	①	⑭	⑬	①	⑤	⑨		⑭	⑭	②	⑭	③	⑧	⑭	⑭

客向けの「かりかり博士」という屋号のたこ焼き屋が営業を始め、今に至る（図 76-81）。一方、東側の「伊勢屋」は昭和 43 年から平成 21 年まで営業していた。平成 23 年に入り、「京・月待庵」という屋号の煎餅屋が営業を始め、平成 24 年現在も営業している（図 80, 81）。

〔南 3-12〕「三京水産」という屋号の塩干を扱う店舗が昭和 31 年から現在まで営業している（図 55-81）。この「三京水産」は創業以来、ずっと家族で経営していて、ささかいかい、甘鯛、アジの開きなど塩干類に加え、珍味なども販売している。

〔南 3-13〕創業 60 年の「大島はきもの店」という屋号の履物屋で昭和 31 年から平成 24 年現在まで営業している（図 55-81）。主力商品は下駄や草履である。

〔南 3-14〕精肉屋「錦松竹亭」が昭和 31 年から昭和 34 年まで営業していた（図 55-57）。その後、精肉屋「中川」が昭和 38 年から昭和 63 年まで営業していた（58-66）。しかし、昭和 43 年からこの区画は 2 つに分けられ、西側で精肉屋「中川」が、東側で〔南 3-15〕で営業していた鮮魚店「松華」が営業を始める。西側で営業していた「中川」は平成 3 年まで営業していた。その後精肉屋（牛肉・豚肉）、「むら瀬」が平成 3 年から現在まで営業している（図 68-81）。よって「中川」と「むら瀬」は、屋号が変更しているものの、同族経営である点で、経営は継続している。東側で営業していた「松華」は昭和 56 年まで営業していた。昭和 59 年からは饅頭店「三善屋」が平成 4 年まで営業していた。平成 6 年に入り、生花店「花つね」が平成 15 年まで営業していた（図 69-76）。「花つね」は後に、〔南 4-6〕に統合される。平成 17 年以降現在まで、「旬味屋」という屋号の珍味を扱う店舗が営業している（図 77-81）。

〔南 3-15〕ここでは鮮魚店「松華」が昭和 31 年から昭和 43 年まで営業していた（図 55-60）。「松華」の経営者は中国人で、この区画以外にも錦市場内の土地を所有している。その後、「松華」は〔南 3-14〕に移動し、昭和 48 年から陶器店「河善」が平成 24 年現在まで営業している（図 61-81）。

〔南 3-16〕この区画は、昭和 31 年から平成 14 年まで薬局「小林」があり、家族経営されていた。（図 55-75）。錦市場の人々は、ちょうど中心地にあって便利を、よく利用していた。しかし、店主の死去により、息子が薬剤師の免許を持っていなかったために薬局を廃業し、貸店舗とした。平成 15 年、「沔白庵」という屋号の中華練薬膳点心を扱う店舗が営業を始め、現在に至る（図 76-81）。角地であることや、練り物系や飲み物等、手ごろに食べられる商品を販売しているため、多くの観光客が立ち寄って、付近で立ち食いをしている。

3-4. 第 4 ブロック

第 4 ブロック（富小路通から麩屋町通）は、北側 14 区画、南側 18 区画に分け説明する。このブロックは、調査開始の昭和 31 年以前から営業を続ける老舗が多く、そのころから変わらず営業している店舗が、27 店舗中 16 店舗と半数以上もある。そのなかで、特に古いのは、「入江」「伊豫又」「津乃喜」など 200 年以上続く老舗で、その創業期は江戸時代にまで遡る。その他にも 100 年以上続く店舗が同じ場所に店を構えている店舗が多く、歴史を感じさせるブロックである。

[北 4-1] 「理髪店カミジ」という屋号の理髪店が昭和 31 年から平成 19 年まで営業していたが、高齢のため平成 19 年 12 月 31 日に廃業した（図 82-105）。現在は、隣の錦の「錦大友」がガレージとして利用している（図 106-108）。

[北 4-2] 昭和 2 年創業の乾物店「錦大友」が、現在に至るまでこの場所で営業をしている。（図 82-108）。五条にある「大友」がのれん分けをし、錦市場に出店したため「錦大友」という屋号となった。

[北 4-3] 創業約 100 年の「近喜」という屋号の豆腐店が現在も変わらず営業している（図 82-108）。江戸時代から続く「近喜」が約 100 年前に錦市場に出店する際、現在の場所と高倉通り・堺町通りの間に 2 店舗を設けた。現在はこの場所のみである。

[北 4-4] 昭和 31 - 52 年に「大阪屋」という乾物屋が営業していた（図 82-89）。その後昭和 56 年 - 平成 3 年の間は「ブティックさふれ」という屋号の洋服屋が営業しており、経営者の井上氏が奥でクリーニング業も一緒に営んでいた（図 90-94）。平成 4 年頃のアーケードの改修時前後の 2 年は店頭で営業はしていなかったが、店の奥で生活が続けていた。この 2 年の間に、店舗改修を行っていた「中央鶏卵」に店先を貸していたこともあった（図 95）。平成 5 年頃からは「北尾」という屋号の豆類を扱う店舗が営業している（図 96-108）。

[北 4-5] 天明 8 年（西暦 1788 年）創業の「津之喜」という酒屋が現在も変わらず営業し続けている（図 82-108）。今年で創業 223 年である。「津之喜」は、錦市場で唯一酒類販売を行う店舗であるが、日本酒とウィスキーにほぼ特化した商品構成にしている。ワイン取扱いの要望も強いようであるが、現在の店主は「うちのような店は、手を広げて、目立つ事をやって大きな花火をあげたらあかん。肅々と次の代につなげていくことが大切や。」と、老舗を維持する事の難しさについて述べる。こうしたこだわりや老舗を継続し続ける事に対する使命感も、錦市場のアイデンティティを形成する重要な要素である。

[北 4-6] 昭和 31 年には「辻熊」という青果店が営業していた（図 82-84）。昭和 38 年からは「山元馬場商店」という屋号の川魚専門の鮮魚店が営業を続けている（図 85-108）。

[北 4-7] この区画は、昭和 21 年頃創業の「中央鶏卵」という屋号の鶏卵店が営業を続けている（図 82-108）。小さな区画に鶏卵しか陳列しておらず、こうした専門店が維持継続している点も、錦市場らしさである。

[北 4-8A] この区画は、昭和 31 年 - 昭和 41 年程まで小西氏が、[北 2-4] の「山市商店」から土地を借り、山崎パンを販売していた（図 82-86）。その後小西氏が又貸しをし、「マルヤ」が青果果物屋として営業を始めたようである（図 87-108）。マルヤが営業を始めてしばらくの間、地主である山市商店とマルヤとの賃貸借契約は、小西氏を挟んだ又貸し状態になっていた。また、住宅地図上は「丸弥」から「マルヤ」と屋号が変化しているが、正確な屋号の変更時期は不明である。

[北 4-8B] 店舗としては、北 4 - 8A と同じ「マルヤ」が経営しているが（図 82-104）、平成 19 年に「hale-晴-」という屋号の飲食店が、「マルヤ」の東側の狭い通路の奥で営業を開始している（図 105-108）。「hale-晴-」の経営主体は、家主である「マルヤ」の関係者が行っている。

〔北4-9〕昭和31年には「イセ信」という屋号の珍味と野菜の卸売の店舗が営業していた（図82-87）。昭和43年から48年の間に「イセ信」が廃業し、その後「喜久屋」が開業している（図88-108）。両者が交代した背景は、もともと「イセ信」は中央市場から珍味と野菜を買い、錦市場で販売していたが、珍味での採算が取れなくなって廃業した。「喜久屋」は珍味の権利を買い受け、珍味屋の「喜久屋」として、その後現在に至るまで営業を続けている。

〔北4-10〕江戸時代から営業している「入江美濃芳」という屋号の豆類を取り扱う店舗が現在も営業している（図82-108）。元は「入江美濃屋」という屋号であったが、3代・4代前の当主、芳三郎氏が自分の名前の1字を入れた「入江美濃芳」と屋号を変更し、その後現在の屋号での営業を続けている。

〔北4-11〕平成19年まで、「餅生菓子たなか」が、河原町松原に本店を構える明治元年創業の「幸福堂」から商品を購入し、生菓子の販売を行っていた（図82-105）。平成19年に店主が死去したため「餅生菓子たなか」として廃業し、「幸福堂」がこの区画の地主である「寺脇文具」から借り受け、営業を始めた（図106-108）。

〔北4-12〕この区画は、41年頃まで「カツオたなか」が鰹節店を行っていた（図82-86）。その後、鰹節店を辞め「餅生菓子たなか」として区画を広げ生菓子のみの営業を行っていた（図87-89）。昭和56年頃から「ちきりや」という屋号のお茶屋が営業を開始したが平成元年頃に廃業した（図90-93）。その後は「やまだしや」というお茶屋が営業を開始し現在に至る（図94-108）。「ちきりや」と「やまだしや」の取扱う商品は共に「お茶」であるが、直接関係はない。「ちきりや」は最近のお茶屋らしく、お茶だけではなく急須や陶器なども置いていたのだが、他店との差別化が出来ず、結果的に「ちきりや」は廃業することとなった。そこで、「やまだしや」は、お茶の葉だけを専業にし、価格も手の出しやすい価格に設定し、店頭でほうじ茶を焙じて量り売り販売するなど、他店との差別化を行って営業を続けている。こうした販売方法が受けて、観光客の中には遠方からのファンも多い。

〔北4-13〕「寺脇文具店」という文房具を取り扱う店が営業を続けている（図82-108）。

〔北4-14〕平成6年まで青果店「青果寺脇」が営業していた（図82-96）。平成7年からは「健寿の京」という生活用品を取り扱う店に変わり現在に至る（図97-108）。

〔南4-1〕大正11年創業の「川政」という青果店が同じ場所で営業を続けている（図82-108）。川政は、京野菜を取り扱う店で、店頭には夏は賀茂茄子や、京都の黒豆枝豆、万願寺唐辛子などの地元の料亭や料理旅館などに納める商品が多種類陳列されている。「静むらさき（葉大根）」や、「ずいき（里芋の茎で、京都の人は煮物にして夏に食べる）」などの珍しい食材や京都らしい食材なども手に入る。歳末になると、おせち料理のための飾り切りの人参やタケノコなどが、華やかに店頭を飾る。

〔南4-2〕昭和8年創業の鮮魚店「魚よし」が、「川政」から場所を間借りして、営業を続けている（図82-108）。最初はほんの小さな区画であったが、昭和35年以降は隣の「中川」の区画まで店舗スペースを広げ、営業している。

〔南4-3〕昭和35年に「川政」が建替えをするまで「中川」というおでん屋が営業していた（図

82-84)。この店舗は、別の場所で商品を作り、場所だけ川政から借りて営業を行っていた。中川が廃業し、35年以降は隣の「魚よし」が区画を広げ営業を行っている（図 85-108）。

〔南 4-4〕昭和 21 年創業の「喜久屋」という屋号のうどん屋が営業しており、現在まで続いているが、店主が怪我をしたため、現在は休業中である（図 82-108）。

〔南 4-5〕平成 4 年頃のアーケード改修時期まで「吉田喜」という屋号のお店が「喜久家」の前（魚よし側）を借り営業をしていた（図 82-95）。もともと別の場所（仏光寺近辺）で営業しており、錦市場のこの区画ではそこで製造した商品を並べ営業を行っていた。全国的に有名な蒲鉾屋でござう天やお寿司に入れる具などを取り扱っていた。平成 4 年に「吉田喜」の店主が老齢により廃業してからは、「喜久家」が飲食のスペースを拡張し、現在の店構えとなった（図 96-108）。

〔南 4-6〕昭和 31 年には「池田商店」が衣類を販売していた（図 82-102）。平成 15 年に店主が高齢になったため廃業し、地主であった「木源」が区画を広げ現在も営業している（図 103-108）。

〔南 4-7〕この区画は、昭和 31 年には「昆布井上」が昆布屋として営業を行っていた（図 82-96）。平成 6 年に店主の高齢や裁判などが重なり、移転し、「昆布井上」の息子が「千波」として〔北 2-5B〕で昆布屋を経営している。平成 6 年以降は、「木源」が区画を広げ営業を行っている（図 97-108）。

〔南 4-8〕この区画は、雑貨「木源」が足袋や衣類を販売している（図 82-108）。昭和 31 年より以前は「木源」がこの区画で蒲鉾屋を営業していたこともあった。平成 6 年に「昆布井上」（南 4-7）の区画まで店舗スペースを広げ、平成 15 年には「池田商店」（南 4-6）まで区画を拡張して営業している。

〔南 4-9〕この区画は、創業 77 年の「島本商店」という屋号の乾物屋（海苔・鰹節）が現在も営業を続けている（図 82-108）。昭和 10 年頃から平成 11-13 年程まで西店が〔南 3-6〕にあり、店舗を増やす目的で現在の場所でも営業を始めた。始めた詳しい時期については分からないとのことであったが、昭和 31 年の段階では既に営業を行っている。当時は西店、東店として営業していたが、住み込みで西店を任せていた従業員の死去と、景気の悪化に伴う売り上げ低下が重なり、平成 11-13 年に西店を廃止して東店を本店とし、現在に至る。

〔南 4-10〕この区画は、創業約 400 年の寿司屋「伊豫又」が現在まで営業を行っている。現在の店主で 20 代目である（図 82-108）。「伊豫又」の寿司は江戸前ではなく、日本海のサバを使用した鯖寿司や雀寿司（天然鯛の押し寿司）、箱寿司（鰻の押し寿司）など、京都の伝統的な押し寿司を売りとする。

〔南 4-11〕昭和 31 年には、「履物服部」が営業していたが、平成 6 年頃に店主の死去により廃業した（図 82-96）。平成 7 年からは所有者である隣の「不二食品」が区画を広げ、営業している（図 97-108）。

〔南 4-12〕この区画は、昭和 15-20 年頃創業の「不二食品」という屋号の佃煮や昔ながらの棒だら、にしんの煮物などの総菜を販売する店舗がここで引き続き営業している（図 82-108）。

〔南 4-13〕昭和 22 年頃創業の漬物店「打田漬物」が営業している（図 82-108）。昭和 43 年から南 2-7B と南 2-8 に出店した「京漬物打田」が、店頭で漬け物樽を並べ、その上に商品を陳列するとい

図 82. 第4ブロック (昭和31年)

	⑭	⑦	⑪	⑦	⑭	⑤	④	⑭	⑧	⑫	⑭	⑦	⑭	⑤				
	理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	辻熊	中央錦部	小西	イセ信	入江美濃芳	餅生菓子たなか	カツオ田中	文房具寺脇	八百屋寺脇				
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	中川	吉田喜錦店	喜久家	池田	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	③	⑮	⑭	⑧	⑭	⑦	⑮	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 83. 第4ブロック (昭和32年)

	⑭	⑦	⑪	⑦	⑭	⑤	④	⑭	⑧	⑫	⑭	⑦	⑭	⑤				
	理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	辻熊	中央路郎	小西	イセ信	入江美濃芳	餅生菓子たなか	カツオ田中	文房具寺脇	八百屋寺脇				
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	中川	吉田喜錦店	喜久家	池田	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑧	⑬	⑭	⑧	⑭	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 84. 第4ブロック (昭和34年)

	⑬	⑦		⑦		⑬	⑤	④		⑬	⑧	⑫	⑭	⑦	⑭	⑤										
	理髪カミジ	錦大友		近喜		大阪屋		津之喜		辻熊		中央路郎		小西		イセ信		入江美濃芳		餅生菓子たなか		カツオ田中		文房具寺脇		八百屋寺脇
北	4-1	4-2		4-3		4-4		4-5		4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14							
南	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18								
	川政	魚よし	中川	吉田喜錦店	喜久家	池田	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩								
	⑤	①	⑧	③	⑮	⑭	⑧	⑭	⑦	⑮	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③								

図 85. 第4ブロック (昭和38年)

	⑭	⑦	⑪	⑦	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑦	⑭	⑤			
	理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	馬場商店	中央錦部	小西	イセ信	入江美濃芳	餅生菓子たなか	カツオ田中	文房具寺脇	八百屋寺脇			
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑧	⑭	⑦	⑮	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 86. 第4ブロック (昭和41年)

	⑭	⑦	⑪	⑦	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	①	⑭	⑤			
	理髪 カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	馬場商店	中央鶴那	小西	イセ信	入江美濃芳	餅生菓子たなか	カツオ田中	文房具寺脇	八百屋寺脇			
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑦	⑭	⑧	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 87. 第4ブロック (昭和43年)

	⑭	⑦	⑪	⑦	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑤				
	理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	馬場商店	中央競艇	丸弥	イセ信	入江美濃芳	餅生菓子たなか	文房具寺脇	果寺脇				
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	昆布不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑮	⑧	⑭	⑦	⑮	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 88. 第 4 ブロック (昭和 48 年)

14	7	11	7	14	1	4	6	8	12	14	14	5				
理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	丸弥	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	文房具寺脇	青果寺脇				
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14		
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-16	4-17	4-18
川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
5	1	8	13	14	8	14	7	13	14	8	9	2	2	1	1	3

図 89. 第 4 ブロック (昭和 52 年)

14	7	11	7	14	1	4	6	8	17	14	14	5				
理髪カミジ	錦大友	近喜	大阪屋	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	丸弥	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	文房具寺脇	青果臨仏三郎				
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14		
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-18		
川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
5	1	8	13	14	8	14	7	13	14	8	9	2	2	1	1	3

図 90. 第 4 ブロック (昭和 56 年)

⑭	⑦	⑪	⑭	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑤					
理髪カミジ	錦大友	近喜	ブティック	さふれ	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	ちきりや	文房具寺脇	ぼら文食料品店	青果寺脇広三郎		
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑭	⑧	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 91. 第 4 ブロック (昭和 59 年)

14	7	11	14	14	1	4	6	8	12	14	14	14	5				
理髪カミジ	錦大友	近喜	ブティック	さふれ	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	ちきりや	文房具寺脇	ぼら文食料品店	青果 臨広三郎		
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	5	1	8	13	14	14	8	7	13	14	8	9	2	2	1	1	3

図 92. 第 4 ブロック (昭和 61 年)

⑭	⑦	⑪	⑭	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑤				
理髪カミジ	錦大友	近喜	ブティック	さふれ	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	ちきりや	文房具寺脇	青果寺脇広三郎		
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14		
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-18		
川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑧	⑭	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 93. 第 4 ブロック (昭和 63 年)

⑭	⑦	⑪	⑭	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑤					
理髪カミジ	錦大友	近喜	ブティック	さふれ	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	ちきりや	文房具寺脇	青果寺脇広三郎			
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-18			
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑭	⑧	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 94. 第4ブロック (平成3年)

	14	7	11	14	14	1	4	6	8	12	14	14	14	5		
北	理髪カミジ	錦大友	近香	ブティック	さかれ	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	ばら文食料品店	青果寺脇広三郎	
	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14		
南	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	5	①	⑧	13	14	8	14	7	13	14	⑧	9	2	②	①	③

図 95. 第4ブロック (平成4年)

	⑭	⑦	⑪		⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	⑤			
	理髪カミジ	錦大友	近香	空	津之香	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	文房具寺脇	ぼら文食料品店	青果寺脇広二郎		
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	吉田喜錦店	喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑧	⑬	⑭	⑭	⑭	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 96. 第4ブロック (平成6年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	④	⑤			
	理髪力ミジ	錦大友	近香	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	文房具寺脇	ぼら文食料品店	青果寺脇広三郎			
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14			
南	4-1	4-2		4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし		喜久家	池田商店	昆布井上	木源	島本	伊豫又	服部商店	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①		⑬	⑭	⑧	⑭	⑦	⑬	⑭	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 97. 第4ブロック (平成7年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	⑭
	理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	津之香	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑬	⑭	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 98. 第4ブロック (平成9年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	⑭
	理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	寺脇文具店	健寿の京	
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑬	⑭	⑭	⑧	⑬	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 99. 第4ブロック (平成11年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	豆入江美濃芳	餅生菓子たなか	寺脇文具店	健寿の京	
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	鳥岩
	⑤	①	⑬	⑭	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	①	③

図 100. 第 4 ブロック (平成 12 年)

14	7	11	12	14	1	4	6	8	12	14	14	14		
理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	豆入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京	
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	空	
5	1	13	14	14	7	13	8	9	2	2	1	1		

図 101. 第 4 ブロック (平成 13 年)

14	7	11	12	14	1	4	6	8	12	14	14	14		
理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	酒津之香	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京	
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	空
	5	1	13	14	14	7	13	8	9	2	2	1	1	

図 102. 第 4 ブロック (平成 14 年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	酒津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-6	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18
	川政	魚よし	喜久家	池田商店	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	空
	⑤	①	⑬	⑭	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	①	

図 103. 第 4 ブロック (平成 15 年)

14	7	11	12	14	1	4	6	8	12	14	14	14		
理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	酒津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京	
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	更科	空	
	5	1	13	14	7	13	8	9	2	2	1	1		

図 104. 第 4 ブロック (平成 17 年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	理髪カミジ	錦大友	近喜	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	創作布春秋	空	
	⑤	①	⑬	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	⑭		

図 105. 第 4 ブロック (平成 19 年)

	⑭	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑬	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	理髪カミジ	錦大友	近香	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	晴	喜久屋	入江美濃芳	餅生菓子たなか	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18		
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	創作布春秋	野村備查		
	⑤	①	⑬	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	⑭	⑧		

図 106. 第4ブロック(平成21年)

	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑬	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	錦大友	近喜	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	晴	喜久屋	入江美濃芳	幸福堂	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	鳥羽庄	創作布春秋	野村佃煮	
	⑤	①	⑬	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	①	⑭		⑧

図 107. 第4ブロック(平成23年)

	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑬	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	錦大友	近喜	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	晴	喜久屋	入江美濃芳	幸福堂	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	ガレージ	創作布春秋	野村佃煮	
	⑤	①	⑬	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	⑭	⑧		

図 108. 第4ブロック(平成24年)

	⑦	⑪	⑫	⑭	①	④	⑥	⑬	⑧	⑫	⑭	⑭	⑭	
	錦大友	近喜	北尾	津之喜	馬場商店	中央鶏卵	マルヤ	晴	喜久屋	入江美濃芳	幸福堂	やまだしや	寺脇文具店	健寿の京
北	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8A	4-8B	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14
南	4-1	4-2	4-5	4-8	4-9	4-10	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	
	川政	魚よし	喜久家	木源	島本	伊豫又	不二食品	打田	京一屋	津乃弥	ガレッジ	創作布春秋	野村佃煮	
	⑤	①	⑬	⑭	⑦	⑬	⑧	⑨	②	②	⑭	⑧		

う美しいプレゼンテーションで、2区画を使った広い店舗で営業を行っているが、錦市場での打田漬物の起源はこの区画である。

〔南 4-14〕昭和15年頃創業の塩干店「京一屋」が現在に至るまで営業を続けている(図 82-108)。

〔南 4-15〕昭和3年創業の塩干店「津乃弥」を取り扱うお店が、昭和31年から現在も変わらず営業を続けている。(図 82-108)

〔南 4-16〕「鳥羽庄」という屋号の鮮魚店が営業していたが、平成21年に店主の死去に伴い、廃業した(図 82-106)。現在は普段はガレッジとして使用しており、年末だけ、テナントとして知人に場所を貸している(図 106-108)。

〔南 4-17〕鮮魚店「更科」が平成15年まで営業していた(図 82-103)。しかし店主の死去により廃業し、平成17年には「春秋」という創作布を取り扱う店が営業を始め現在に至る(図 104-108)。

〔南 4-18〕この区画では「鳥岩」という屋号の鶏肉屋が、「更科」から間借りし、平成11年まで営業していた(図 82-99)。「鳥岩」は、平成11年頃、「更科」からの立退きを要求され、立退いている。平成13年 - 平成19年の6年間は空き店舗となっていた(図 100-104)。平成19年からは「野村佃煮」

という屋号の佃煮屋が営業を始め現在に至る（図 105-108）。野村佃煮は、創業 80 年と歴史のある店舗であり、もともと錦市場内でもお店を営んでいたが、錦市場からは一度撤退している。平成 19 年に、この場所に再参入し、錦市場での営業を開始している。⁶⁾

3-4. 第 5 ブロック

以下では、第 5 ブロック（麩屋町通から御幸町通）を北側 10 区画、南側 13 区画に分けて順に説明する。

このブロックはあまり大きな変化はなく、昔からずっと同じところで経営している店舗が多い。また、昔は一つの店舗を 2 つのお店を半分にして使ったり、前後で分けたりと、複雑なところが多かったが、現在はどちらかが移動して、一店舗に一つのお店が経営するようになっている。

〔北 5-1〕昭和 31 年には、この区画は古代菓子の「ちんたら」が経営していた（図 109-127）。平成 13 年からは鮮魚店「かね秀」が〔北 5-5A〕からこの区画に移転し、現在もここで経営している。（図 128-135）

〔北 5-2〕昭和 31 年には、マグロを中心に販売する「錦株式会社」が経営していた（図 109-134）。昨年「錦株式会社」は廃業し、平成 24 年から「ひだまりのタマ」というお土産用の和雑貨屋が経営している（図 135）。土地は「錦株式会社」が所有している。

〔北 5-3〕昭和 31 年から変わることなく現在も「桑藤」という鮮魚店が経営している（図 109-135）。「桑藤」は鮮魚・冷凍水産物を中心に販売している。

〔北 5-4A〕この区画は昭和 31 年には、「神戸屋」という蒲鉾屋が経営していた（図 109-115）。「神戸屋」は、大阪の「かねてつ」の商品を仕入れて販売している店であった。「神戸屋」はご主人の死去後、後継者の不在により、昭和 48 年頃、撤退してしまった。この区画は、鮮魚店である「丸松」から、三分の一ほどの場所を借りて営業していた。

〔北 5-4B〕「丸松」は、昭和 31 年からずっと変わらず経営している（図 109-135）。「丸松」は始め、錦市場に面した前三分の一ほどのスペースを、「神戸屋」に貸していたが、「神戸屋」の撤退後は、店舗スペースを拡張してすべてのスペースを自社で使用している。当初は鮮魚を販売していたが、2011 年頃から、卸売りの減少に伴い、小売りを強化するため、お土産にもできるような味噌漬けを中心に販売するようになった。

〔北 5-5A〕〔北 5-5B〕生麩のお店である「麩房」は創業は天保の時代にさかのぼる。現在も同じ場所で経営している（図 109-135）。昭和 52 年から鮮魚店の「かね秀」に土地の前半分を貸していた。「かね秀」は卸中心に経営している鮮魚店で、創業は約 80 年であり、始めは松原にお店を出していた。

6) 以前、錦でお店を営んでいた場所、時期については錦市場内及び野村佃煮にも聞き取りを試みたが、当時の事を知人が、野村佃煮の社長を含めていなかったため、詳細は不明である。

その後、麩屋町通に移って5年ほど経営してから、約65年前にこの区画に移動してきた（図116-126）。平成13年からは〔北5-1〕に移動している（図128-135）。かね秀の名前の由来は、先代の名前が秀次郎であったため、そこから取ったものである。

〔北5-6A〕この区画にあった「鳥羽庄」という鮮魚店は、第四ブロックに平成21年まであった鳥羽庄とは異なる店舗であり、戦後錦市場に入ってきたお店である（図109-121）。この「鳥羽庄」は、この区画の前の土地を隣の「湯波吉」から借りて、平成3年まで経営していた。現在は「湯波吉」が店舗を拡張して営業している。

〔北5-6B〕「鳥羽庄」の後ろで経営していたのは京ゆば専門店の「湯波吉」である。（図109-135）。創業約220年（1790年）の老舗ゆば店であり、江戸時代から同じ場所で営業を続けている。「湯波吉」の名前の由来は初代の名前が吉兵衛さんで、その吉をとって「湯波吉」となった。平成3年以降は、区画を拡張して営業している。現在、手前が店舗スペースであり、奥が湯葉の工房となっている。

〔北5-7〕昭和31年には、荒物店「近江」が経営していた（図109-116）。昭和56年には、嘉ねと一緒に経営していた「近新」がこの区画に移動してきた。（図117-132）。平成21年以降は、1Fが陶器を販売している「陶葺」、2Fが「京倶楽部 アトラスクラブ」となった（図133-135）。「京倶楽部」は食事処のお店で、「アトラスクラブ」はまつ毛を補正したり、まゆ毛を修正してくれるエステサロンである。

〔北5-8〕この区画は、昭和31年には乾物のお店「松村屋」であり、現在に至る。宮崎産ちりめんじゃこが売れ筋の商品である（図109-135）。

〔北5-9A〕〔北5-9B〕この区画は、昭和31年には2店舗に広がり、花屋の「花吉商店」が経営していた（図109-115）が、廃業して昭和52年には空家となり、〔北5-9A〕の区画は、昭和59年には庖丁店「有次」が入居し、現在に至る。（図118-135）「有次」は創業1560年の伝統あるお店で、庖丁をはじめとする手作りの料理道具を取り揃えている。近年では、フランスや遠くブラジルまで名前が知られ、わざわざ遠い国から包丁を買いに来る顧客も多い。また、〔北5-9B〕の区画は、昭和59年から「錦薬局」となり（図118-131）、平成19年以降は、雑貨屋の「まねきねこの手 招喜屋」が経営している（図132-135）。

〔北5-10〕青果店「四寅」は、創業は明治中期であり、現在まで約120年ほどの歴史がある。中央市場にもお店がある。現在錦市場内で営業している土地は借地である。（図109-135）

〔南5-1〕この区画は、昭和31年には「渡半」という鮮魚店がすでに営業していた。渡半の現在の店主は4代目である（図109-135）。ふぐやはもを中心に扱う。

〔南5-2〕昭和31年から平成11年までは「米秀」という鮮魚店（海老専門店）が営業しており、生ガキなども売っていた（図109-126）。生ガキを販売していたのは、「米秀」のご主人が広島出身ということもあり、知り合いから生ガキを仕入れることができたからである。住宅地図に昭和31-34年まで表記されていた「海老吉」というのは「米秀」で働いていた従業員の名前である。米秀が平成11年に倒産した後、平成13年から現在まで「竹長」という塩干店が営業している。（図127-135）

〔南 5-3〕昭和 31 年の記録では、精肉店の「木村」であったが、それ以前、戦後の一時期「田村」という塩干ものを置いている店舗があった。「田村」は戦後から 5 年ほど経営しており、その後は精肉店の「木村」が営業している（図 109-124）。平成 9 年には京つけもの屋の「高倉屋」が参入したが（図 125-129）、「高倉屋」は平成 15 年に南 6-6 に場所を移し、代わりに焼き栗を売る「京丹波」が入居し、現在に至る。（図 130-135）

〔南 5-4〕昭和 31-52 年まで店舗名は「近新」であるが、「嘉ねた」と「近新」はこの区画で共に営業していた（図 109-116）。昭和 56 年からは、「嘉ねた」単独の営業に切り替わった（図 117-132）。平成 17 年からカフェを始め、現在は 1 階では「嘉ねた」として海産物を中心に販売をし、2 階で「カネタカフェ」を営業している（図 133-135）。「嘉ねた」の歴史的背景は、江戸時代から二条近辺で人形を製造・販売をしていたが、蛤御門の変で店舗が焼けだされてしまった。その後「近新」と塩干の商売を始め、現在に至る。この区画の建物は、改装はしているものの 140 年程前からの歴史あるものである。

〔南 5-5〕昭和 31 年から現在に至るまで「丸弥太」という魚屋が営業している（図 109-135）。「丸弥太」は創業約 105 年のお店であり、昔から変わらずこの場所で、冬はふぐ、夏ははもを専門に販売している。現在の店主で 4 代目になる。

〔南 5-6〕昭和 31 年から現在に至るまで「あづま屋」という珍味屋が営業している。（図 109-135）現在は、ほうじ茶ソフトクリームや手焼き豆せんべいなど、観光客向けの商品を販売している。

〔南 5-7〕この区画は、昭和 31 年から現在に至るまで「まる伊」という魚屋が営業している。（図 109-135）「まる伊」はふぐ・はもを中心に販売する専門店である。

〔南 5-8〕昭和 31 年から平成 15 年まで「七栄」という蒲鉾屋が営業していた（図 109-130）。「七栄」は中央市場でもお店を持っており、錦市場では製造販売、中央市場では卸売りをしていた。「七栄」の店主が死去した後、奥さんと娘さんが少しの間続けていたが、長く続かなかった。息子さんもいたが、後を継がずに不動産業を始めたため、廃業を決めた。廃業後、半年から一年ほど空家だったが、平成 17 年に厚生会の前でお店を出していた珍味屋の「權」が「七栄」から借受け、テナントとして入居した（図 131-135）。

〔南 5-9〕川魚専門店の「のとよ」は創業 1912 年で、同じ場所で営業を続けている（図 109-135）。昭和 38 年から「のとよ西店」の営業を始めたが、もともと西店は「のとよ」が所有しており、戦時中、戦後は店舗を貸していた。しかし、空き家になったため、営業力を増やそうという考えで、現在の「のとよ」の店主と前の店主（現在の店主の父親）の二人で分担して、二つのお店を始めた。こちらの区画が本店である。本店の店頭では、沢ガニやすっぽん、どじょうなどが、生きたまま桶に入って売られている。注文すると、どじょうや沢ガニは生きたままビニール袋に入れられ、スッポンは鍋にしやすい大きさに、店の奥で捌いてくれる。スッポンというと生き血も需要があるが、生き血は焼酎と混ぜて、小さなビニール袋に入れて、まる鍋（スッポン鍋）の作り方の説明書きとともに渡してくれる。

図 109. 第5ブロック (昭和31年)

	⑭	①	①	⑩	①	⑪	①	⑪	⑭	②	⑭	⑤	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
	ちん とら	錦 K K	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀 ・ 海 老 吉	木 村	近 新 K K	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	①	①	③	①	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	①	②

図 110. 第5ブロック (昭和32年)

	⑭	①	①	⑩	①	⑪	①	⑪	⑭	②	⑭	⑤	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀 ・ 海 老 吉	木 村	近 新 KK	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	①	①	③	①	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	①	②

図 111. 第5ブロック (昭和34年)

	⑭	①	①	⑩	①	⑪	①	⑪	⑭	②	⑭	⑤	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀 ・ 海 老 吉	木 村	近 新 KK	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	①	①	③	①	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	①	②

図 112. 第5ブロック (昭和38年)

	⑭	①	①	⑩	①	①	①	⑪	⑭	②	⑭	⑤	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	木 村	近 新	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	①	①	③	①	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	①	⑦

図 113. 第5ブロック (昭和41年)

	(14)	(1)	(1)	(10)	(1)	(11)	(1)	(11)	(14)	(2)	(14)	(5)	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	木 村	近 新 KK	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(1)	(2)

図 114. 第5ブロック (昭和43年)

	(14)	(1)	(1)	(10)	(1)	(11)	(1)	(11)	(14)	(2)	(14)	(5)	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神 戸 屋 (前)	丸 松 (後)	麩 房	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	木 村	近 新	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 侶	鳥 長	北 川	三 上
	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(1)	(2)

図 115. 第5ブロック (昭和48年)

	(14)	(1)	(1)	(10)	(1)	(11)	(1)	(11)	(14)	(2)	(14)	(5)	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10			
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	神戸屋（前）	丸松（後）	麩 房	鳥 羽 庄（前）	湯 波 吉（後）	近 江	松 村	花 吉 商 店	四 寅	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	木 村	近 新 KK	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 倍	鳥 長	北 川	三 上
	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(1)	(2)

図 116. 第5ブロック (昭和52年)

	(14)	(1)	(1)	(1)	(1)	(11)	(1)	(11)	(14)	(2)		(1)	(5)
	ちん とら	錦 KK	桑 藤 KK	丸 松	か ね 秀 (前)	麩 房 老 舗 (後)	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 江	松 村	空	花 吉 商 店	四 寅
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	木 村 東 店	近 新 KK	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 倍	鳥 長	北 川	三 上
	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(1)	(2)

図 117. 第5ブロック (昭和56年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	①	⑪	①	②		⑭	⑤
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	麩 房 老 舗 (後)	鳥 羽 庄 (前)	湯 波 吉 (後)	近 新 KK	松 村 屋	空	吉 村 商 店	四 寅
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	キム ラ 東 店	嘉 ね た	丸 弥 太	あづ ま 屋	まる 伊	七 栄	の と よ	樹 倍	鳥 長	北 川	三 上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	①	②

図 118. 第5ブロック (昭和59年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	①	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤 KK	丸 松	かね 秀（前）	麩 房 老 舗（後）	鳥 羽 庄（前）	湯 波 吉（後）	近 新 KK	松 村	有 次	錦 薬 局	四 寅
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	キム ラ 東 店	嘉 ね た	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 倍	鳥 長	北 川 加 寿 江	三 上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	⑭	②

図 119. 第5ブロック (昭和61年)

	(14)	(1)	(1)	(1)	(1)	(11)	(1)	(11)	(1)	(2)	(14)	(14)	(5)
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	麩房老舗 (後)	鳥羽庄 (前)	湯波吉 (後)	近新 KK	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡半	よね秀	キムラ東店	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹倍	鳥長	北川加寿江	三上
	(1)	(1)	(3)	(2)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(14)	(2)

図 120. 第5ブロック (昭和63年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	①	⑪	①	②	⑭	⑤	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	麩房老舗 (後)	鳥羽庄 (前)	湯波吉 (後)	近新KK	松村屋	有次	錦薬局	四寅
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡半	よね秀	キムラ東店	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹倍	鳥長	北川加寿江	三上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	⑭	②

図 121. 第5ブロック (平成3年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	①	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	魅 房老舗 (後)	鳥 羽庄 (前)	湯 波吉 (後)	近 新KK	松 村屋	有 次	錦 薬局	四 寅
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね秀	キム ラ東店	嘉 ねた	丸 弥太	あ づま屋	ま る伊	七 栄	の とよ	樹 倍	鳥 長	北 川加 寿江	三 上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	⑭	②

図 122. 第5ブロック (平成4年)

	(14)	(1)	(1)	(1)	(1)	(11)	(11)	(1)	(2)	(14)	(14)	(5)	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	魅 房 老 舗 (後)	湯 波 吉	近 新 K K	松 村 屋	有 次	錦 薬 局	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	キム ラ 東 店	嘉 ね た	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 倍	鳥 長	北 川 加 寿 江	三 上
	(1)	(1)	(3)	(2)	(1)	(8)	(1)	(10)	(1)	(9)	(3)	(14)	(2)

図 123. 第5ブロック (平成6年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤	
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀 (前)	魅 房老舗(後)	湯 波吉	近 新KK	松 村屋	有 次	錦 薬局	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	キム ラ東店	嘉 ねた	丸 弥太	あ づま 屋	ま る伊	七 栄	の とよ	樹 倍東店	鳥 長	北 川若狭屋	三 上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	⑦	②

図 124. 第5ブロック (平成7年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤	
	ざん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀（前）	魅 房老舗（後）	湯 波吉	近 新KK	松 村屋	有 次	錦 薬局	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね秀	キム ラ東店	嘉 ねた	丸 弥太	あづ ま屋	まる 伊	七 栄	の とよ	樹 倍東店	鳥 長	北 川若狭屋	三 上
	①	①	③	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	③	⑦	②

図 125. 第5ブロック (平成9年)

	⑭	①	①	①	①	⑪	①	②	⑭	⑤			
	ちん とら	錦 KK	桑 藤	丸 松	かね 秀（前）	魅房老舗（後）	湯 波吉	近 新KK	松 村屋	有 次	錦 薬局	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね秀	錦 高倉屋	嘉 ねた	丸 弥太	あづま 屋	まる伊	七 栄	の とよ	樹 倍東店	まるや た	若狭屋 高橋	三上 商店
	①	①	⑧	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬	⑦	②

図 126. 第5ブロック (平成11年)

	①	①	①	①	①	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤	
	ちん とら	錦 K K	桑 藤	丸 松	かね 秀（前）	魅 房老舗（後）	湯 波吉	近 新 K K	松 村 屋	有 次	錦 薬 局	四 寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
	渡 半	よ ね 秀	錦 高 倉 屋	嘉 ね た	丸 弥 太	あ づ ま 屋	ま る 伊	七 栄	の と よ	樹 倍 東 店	ま る や た	若 狭 屋 高 橋	三 上 商 店
	①	①	⑧	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬	⑦	②

図 127. 第 5 ブロック (平成 12 年)

①	①	①	①	①	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
ぢんとら	錦 K K	桑藤	丸松	かね秀 (前)	麩房老舗 (後)	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12
渡半	竹長	錦高倉屋	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹侶東店	まるやた	若狭屋高橋
①	②	⑧	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬	⑦

図 128. 第 5 ブロック (平成 13 年)

①	①	①	②	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	麩房老舗	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5A	5-5B	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11
渡半	竹長	錦高倉屋	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹侶東店	まるやた
①	②	⑧	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬

図 129. 第 5 ブロック (平成 14 年)

①	①	①	②	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	麩房老舗	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11
渡半	竹長	錦高倉屋	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹侶東店	まるやた
①	②	⑧	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬

図 130. 第 5 ブロック (平成 15 年)

①	①	①	②	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	麩房老舗	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11
渡半	竹長	京丹波	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	七栄	のとよ	樹侶東店	まるやた
①	②	⑤	②	①	⑧	①	⑩	①	⑨	⑬

図 131. 第 5 ブロック (平成 17 年)

①	①	①	②	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	麩房老舗	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	錦薬局	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11
渡半	竹長	京丹波	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	権	のとよ	樹侶東店	まるやた
①	②	⑤	②	①	⑧	①	⑧	①	⑨	⑬

図 132. 第 5 ブロック (平成 19 年)

①	①	①	②	⑪	⑪	①	②	⑭	⑭	⑤
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	麩房老舗	湯波吉	近新 K K	松村屋	有次	招喜屋	四寅
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9A	5-9B	5-10
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11
渡半	竹長	京丹波	嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	権	のとよ	樹侶東店	まるやた
①	②	⑤	②	①	⑧	①	⑧	①	⑨	⑬

図 133. 第5ブロック (平成21年)

①	①	①	②	⑪	⑪	⑭	②	⑭	⑭	⑤		
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	魅房老舗	湯波吉	1 F 陶菴	2 F 京俱樂部カフェ アトラスクラブ	松村屋	有次	招喜屋	四寅	
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7A	5-7B	5-8	5-9A	5-9B	5-10

南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13	
	渡半	竹長	京丹波	2 F カネタカフェ 1 F 嘉ねた	丸弥太	あづま屋	まる伊	權	のとよ	樹侶東店	まるやた	若狭屋 高橋	三上商店	
	①	②	⑤	②	⑬	①	⑧	①	⑧	①	⑨	⑬	⑦	②

図 134. 第5ブロック (平成23年)

①	①	①	②	⑪	⑪	⑭	②	⑭	⑭	⑤			
かね秀	錦 K K	桑藤	丸松	魅房老舗	湯波吉	1 F 陶菴	2 F 京俱樂部カフェ アトラスクラブ	松村屋	有次	招喜屋	四寅		
北 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7A	5-7B	5-8	5-9A	5-9B	5-10		
南 5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13	
渡半	竹長	京丹波葵本舗	1 F 嘉ねた	2 F カネタカフェ	丸弥太	あづま屋	まる伊	權	のとよ	樹侶東店	まるやた	若狭屋 高橋	三上商店
①	②	⑥	②	⑬	①	⑧	①	⑧	①	⑨	⑬	⑦	②

図 135. 第5ブロック (平成24年)

①	①	①	②	⑪	⑪	⑭	②	⑭	⑭	⑤			
かね秀	ひだまりのタマ	桑藤	丸松	魅房老舗	湯波吉	1 F 陶菴 2 F アトラスクラブ 京俱樂部カフェ	松村屋	有次	招喜屋	四寅			
北	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7A	5-7B	5-8	5-9A	5-9B	5-10	
南	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13
渡半	竹長	京丹波葵本舗	1 F 嘉ねた	2 F カネタカフェ	丸弥太	あづま屋	まる伊	權	のとよ	樹侶東店	まるやた	若狭屋高橋	三上商店
①	②	⑤	②	⑬	①	⑧	①	⑧	①	⑨	⑬	⑦	②

〔南 5-10〕京つけもの「樹侶」は創業 1930 年であり、前述の様に錦市場内に 3 店舗有する。この区画が西から数えて 3 店舗目になる (図 109-135)。

〔南 5-11〕昭和 31 年から平成 7 年まで「鳥長」という鶏肉屋が営業しており、(図 109-124) 平成 9 年から「まるやた」という焼きアナゴのお店が営業している (図 125-135)。「まるやた」は南 5-5 の「丸弥太」の娘婿が経営している。店頭ではアナゴ寿司の販売も行っており、奥にはイトインもある。

〔南 5-12〕昭和 31-56 年までここで営業していた鮮魚店「北川」は、〔北 3-10〕に位置する「椿家」店主夫人の実家である。始めは、「椿家」の夫人の父親が店主として鮮魚を販売していたが (図 109-117)、店主の死去後、「椿家」の夫人の母親が衣服販売店を始め、昭和 59 年に屋号を「衣料北川」とした (図 118-122)。その後、父親の弟子であった高橋氏に、昆布などの乾物を置かせて欲しいと頼まれ、お店で売ようになった。平成 6 年に「北川若狭屋」に屋号を変更する (図 123,124)。母親の死去後、本格的に高橋氏が経営することになり、平成 9 年から現在に至るまで「若狭屋高橋」という屋号で

営業している（図 125-135）。

〔南 5-13〕昭和 31 年から現在に至るまで「三上」という塩干屋が営業している（図 109-135）。「三上」は、乾物・塩干物を取り扱う店である。

3-6. 第 6 ブロック

以下では、第 6 ブロック（御幸町通から寺町通）を北側 4 区画、南側 7 区画に分けて順に説明する。このブロックは大きな変化はなかったが、最近になり、観光客向けの店舗が増加している。

〔北 6-1〕この区画は、「鳥長」という屋号の鶏肉屋が昭和 31 年から平成 23 年まで営業していた（図 136-161）。「鳥長」は、中央市場にも錦市場にも店舗を持ち、中央市場では卸売を、錦市場では小売を中心に販売していた。しかし、店主の死去に伴い、息子が跡を継がなかったため、後継者不在により、錦市場のお店を閉めて、中央市場の店舗だけに集約する事にした。現在、息子は錦市場の近くで焼肉屋を経営している。平成 24 年ビルを大改装し、テナントとして、1 階にドーナツカフェ「花よりキヨエ」を開業している（図 162）。所有は「鳥長」のままである。

〔北 6-2〕この区画は、昭和 31 年には「銀茶屋」という蒲鉾店が営業していた（図 136-138）。昭和 38 年 - 平成 7 年は青果店「池松」があった（図 139-151）。平成 11 年より寿司屋「江戸京」（本店は川端三条）が入居し、現在も江戸京がカウンターのみのお店を営業している。（図 152 - 162）

〔北 6-3〕昭和 31-56 年には、西隣の銀茶屋と並んで、蒲鉾屋「大阪屋」であった（図 136-144）。店主の死去に伴い、大阪屋は廃業した。同じ場所で店主の奥さんと子息で、フラワーショップサカグチを経営し、現在に至る。（図 145-162）

〔北 6-4〕昭和 20 年までは百貨店があった。戦後、進駐軍に接収され、しばらく進駐軍軍人を対象としたキャバレーになっていた。昭和 31 年の時点では、「京都観光ホテルライオン」というホテルであった（図 136-141）。昭和 48 年から「洋服ベガ」になり（図 142）、昭和 52 年 - 平成 11 年までは「ヴィラ宮本」として、1 階は寺町通りに面した店舗、2 階より上は住居ビルであった（図 143-154）。平成 13 年建て替えられ、「寺町錦ビル」という名のビルが建ったが、それまでと同様、錦通側に出入口はない（図 155-160）。このビルは、平成 23 年より「アーバンリサーチ」と改名している。（図 161,162）

〔南 6-1〕昭和 31 年には、「西村茶舗」が営業していた（図 136-138）。昭和 38 年より経営者は同じだが、屋号を「錦園」と改名し、平成 21 年まで営業していた（図 139-159）。しかし実態としては、閉店前数年間はシャッターを閉め、実際の営業をしていなかったように思われる。平成 21 年、京菓子とお茶の店舗「京都鶴寿庵」が入居し、現在に至る。（図 160-162）鶴寿庵は、入り口に一部物品のカウンターを置き、奥は喫茶店となっている。

〔南 6-2〕この区画は、昭和 31 年から現在に至るまで、「錦小路まるき」という食事処が営業している（図 136-162）。にしんそばや親子丼などが人気商品である。

図 136. 第6ブロック(昭和31年)

	③	⑩	⑩	⑭	
	鳥長	銀茶屋	大阪屋	京都観光ホテル イオン	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	西村茶舗	まるき	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	①	⑦ ⑧ ⑭

図 137. 第6ブロック(昭和32年)

	③	⑩	⑩	⑭	
	鳥長	銀茶屋	大阪屋	京都観光ホテル イオン	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	西村茶舗	まるき	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	①	⑦ ⑧ ⑭

図 138. 第6ブロック(昭和34年)

	③	⑩	⑩	⑭	
	鳥長	銀茶屋	大阪屋	京都観光ホテル イオン	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	西村茶舗	まるき	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 139. 第6ブロック(昭和38年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	京都観光ホテル	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 140. 第6ブロック(昭和41年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	京都観光ホテル	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 141. 第6ブロック(昭和43年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	京都観光ホテル	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 142. 第6ブロック(昭和48年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	洋服ペガ	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 143. 第6ブロック(昭和52年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	ヴィラ宮本	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 144. 第6ブロック(昭和56年)

	③	⑤	⑩	⑭	
	鳥長	池松	大阪屋	ヴィラ宮本	
北	6-1	6-2	6-3	6-4	
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5 6-6 6-7
	錦園	まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中 天塚 中徳総本店
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦ ⑧ ⑭

図 145. 第 6 ブロック (昭和 59 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4		6-5	6-6 6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政		田中	天塚 中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬		⑦	⑧ ⑭

図 146. 第 6 ブロック (昭和 61 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 147. 第 6 ブロック (昭和 63 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 148. 第 6 ブロック (平成 3 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 149. 第 6 ブロック (平成 4 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 150. 第 6 ブロック (平成 6 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 151. 第 6 ブロック (平成 7 年)

③		⑤		⑭		⑭	
鳥長		池松		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ナカヤ	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 152. 第 6 ブロック (平成 9 年)

③		⑬		⑭		⑭	
鳥長		江戸京		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ダナパリス	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 153. 第 6 ブロック (平成 11 年)

③		⑬		⑭		⑭	
鳥長		江戸京		フラワーショップ サカグチ		ヴィラ宮本	
北 6-1		6-2		6-3		6-4	
南 6-1		6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
錦園		まるき食堂	ダナパリス	美濃政	田中	天塚	中徳総本店
⑭		⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 154. 第6ブロック(平成12年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	ヴィラ宮本			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	ダナパリス	美濃政	田中	高倉屋	美容室ロイヤル2
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 155. 第6ブロック(平成13年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	サンクスクリン	美濃政	田中	高倉屋	美容室ロイヤル2
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 156. 第6ブロック(平成14年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	サンクスクリン	美濃政	田中	高倉屋	美容室ロイヤル2
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑦	⑧	⑭

図 157. 第6ブロック(平成15年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	サンクスクリン	美濃政	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑧		⑭

図 158. 第6ブロック(平成17年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	サンクスクリン	美濃政	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑭	⑬	⑧		⑭

図 159. 第6ブロック(平成19年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	錦園	まるき食堂	豆招福	美濃政	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑫	⑬	⑧		⑭

図 160. 第6ブロック(平成21年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	寺町錦ビル			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	京都鶴屋	まるき食堂	豆招福	美濃政	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑫	⑬	⑧		⑭

図 161. 第6ブロック(平成23年)

	③	⑬	⑭	⑭			
	鳥長	江戸京	フラワーショップ サカグチ	アーバンリサーチ			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	京都鶴屋	まるき食堂	豆招福	京都絵師	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑫	⑭	⑧		⑭

図 162. 第6ブロック(平成24年)

	⑬	⑬	⑭	⑭			
	花よりキョエ	江戸京	フラワーショップ サカグチ	アーバンリサーチ			
北	6-1	6-2	6-3	6-4			
南	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7
	京都鶴屋	まるき食堂	豆招福	京都絵師	高倉屋	マート	中徳ビル・A B C
	⑭	⑬	⑫	⑭	⑧		⑭

〔南 6-3〕この区画は昭和 31 年から平成 9 年まで「ナカヤ」という金物店が営業しており（図 136-151）、平成 9 年から「ダナパリス」というブティックがあった（図 152-155）。平成 15 年には「サンクススクリーン」というクリーニング店があり（図 156-158）、平成 19 年からは豆屋の「豆招福」が参入し現在に至る（図 159-162）。「豆招福」は厚生会の前の一画で店舗を出した後、この区画に出店して本格参入している。

〔南 6-4〕昭和 31 年には「美濃政」という鮮魚店があったが（図 136-138）、昭和 34 年か 35 年頃からお寿司屋さんになった（図 139-161）。平成 24 年には「美濃政」が廃業し、現在は観光客向けの扇子店「京都絵師」が営業している。（図 162）

〔南 6-5〕昭和 31 年には、乾物屋「田中」が営業していたが、平成 15 年からは漬物店「高倉屋」に代わった（図 136-156）。高倉屋は、以前お店を出していた第 5 ブロックの〔南 5-3〕が第三者に売却されたため、移転してきた。現在の店舗はテナントである。（図 157-162）。

〔南 6-6〕昭和 31 年には天ぷらの惣菜屋「天塚」が平成 11 年まで営業している（図 136-153）。しかし、店舗が火事で全焼して焼失し、跡地に「高倉屋」がテナントとして入居した。そのため、「高倉屋」は、店舗は 1 つで営業しているが、2 筆貸借している。（図 154-162）

〔南 6-7〕昭和 31 年には「中徳総本店」という店舗があり、経営者一家が 2F に住んでいた（図 136-153）。「中徳総本店」は五条通にもお店がある。平成 12 年 - 平成 14 年の間には「美容室 21」があり（図 154-156）、平成 15 年からは靴の大型チェーン店である「ABC マート」が営業している（図 157-162）。

4. 知見

調査の結果、戦後の錦市場では、営業する店舗の業種構成の点で、以下のような変化が起きていることが判明した。

まず、鮮魚店については、昭和 50 年代半ばに一時的に若干の増加が見られるものの、平成に入って、鮮魚業者の数が減少している。昭和 31 年には 33 店舗だったが、その後、店の統廃合などで 32 店舗から 33 店舗を行き来し、昭和 52 年には 34 店舗、昭和 56 年には 35 店舗と、昭和 31 年代以降のピークを迎える。しかしそれ以降、平成に入ると年々微減傾向にあり、平成 4 年に 29 店舗になり、平成 11 年に 28 店舗になり、平成 13 年に 25 店舗、平成 15 年に 24 店舗、平成 19 年に 23 店舗、平成 21 年に 22 店舗、平成 23 年に 20 店舗と調査年度の度に減少し、ついに平成 24 年には 18 店舗が営業するのみである。昭和の変化には、店舗の統廃合による減少等もあったが、平成になってからの減少の大きな要因は、多くの店で店主の死去に伴う後継者不足が原因で閉店した事である。一方、塩干店は微増している。昭和 31 年から 52 年には 8 店舗だったが、昭和 56 年に 9 店舗に増え、平成 13 年には 11 店舗と増加した。その変化は特に平成 12 年（2000 年）以降において顕著である。同様に昭和 50 年代をピークに、精肉業者の数に一時的に増加が見られたものの、その後徐々に減少する。

歴史的に、京都は鶏肉店が多いのだが、昭和61年には鶏肉店、精肉店合わせて11店舗あったものの、昭和63年には9店舗、平成9年には6店舗、平成11年に5店舗、平成13年と一気に減少し、平成24年にはついに3店舗にまで減少した（鶏肉店2店舗、精肉店1店舗）。

青果店は、昭和31年に9店舗だったのが徐々に増加し、昭和52年には12店舗になる。しばらくはその数は安定していたが、平成9年に9店舗に減少、平成19年に8店舗、平成21年に7店舗に減少した。この減少の背景には、店舗の統廃合だけでなく、従来は青果店だった店舗が業種や業態を変化させ、食事処を始めたことにもよる。

乾物の専門店が多く営業するのも、京の台所としての錦市場ならではのであったが、昭和33年には10軒あった乾物店も、現在は4店舗を残すのみである。

佃煮・総菜・珍味や漬物などの加工食品は、昭和31年には合計して22店舗あったが、現在は21店舗である。平成15年には16店舗と数が減少していたものの、佃煮・総菜・珍味や漬物などの加工食品は、日持ちがすることや、持ち運びに便利な事などの理由から京都を訪れる観光客が土産物として購入する好適品でもある。そのため、平成17年度以降は閉店した店舗の跡地に新規に入居する加工食品の店が増加し、数が再び増加した。

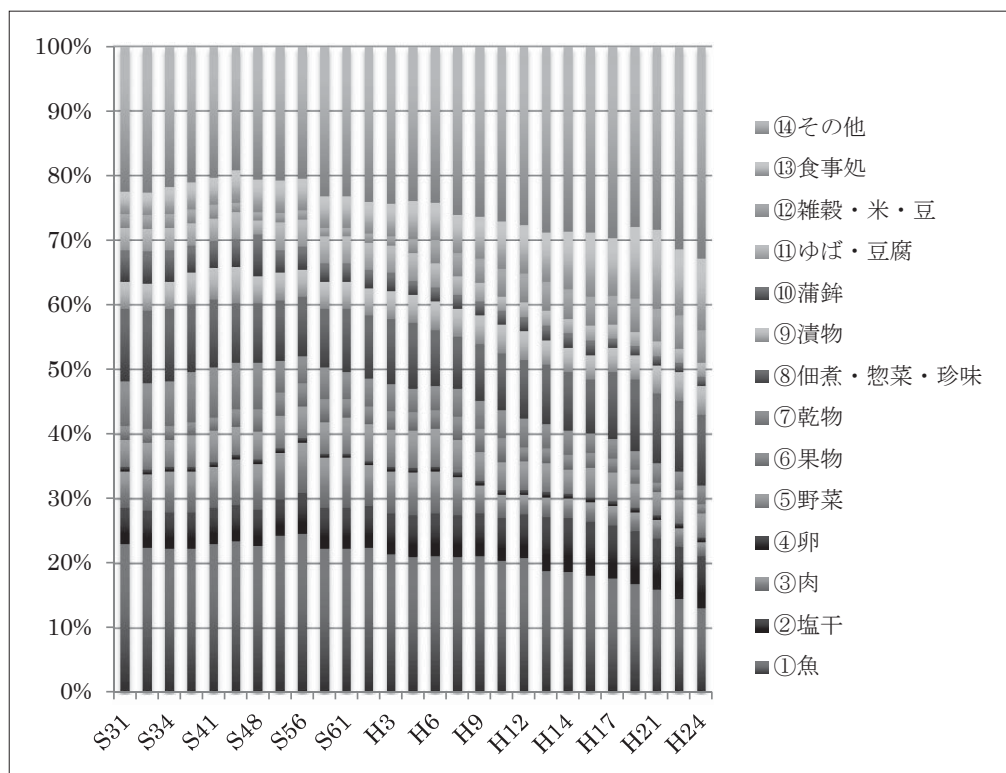
京都は、海から遠い為、昔から日持ちのする蒲鉾が好まれる食文化である。そのため、昭和31年には7店の蒲鉾店が錦市場内で軒を並べていた。興味深い事に、蒲鉾店は隣り合った2軒で営業している店舗が多かった。しかし冷蔵庫の普及や食生活の変化を理由に徐々に減少し、現在は2店舗を残すのみである。

これらの伝統的な京都の食文化を代表するような業種に対して、近年急速に数を伸ばしているのが、食事処とその他店舗である。食事処については、昭和31年には5店舗だったが、その後平成11年までは約10年に1店舗のペースで微増する。急激に増加し始めるのが平成11年以降である。平成21年の17店舗をピークに、現在は15店舗の食事処が錦市場で営業している。こうした数字に現れた変化以外にも、大安や錦大丸、のとよ西店、かね松などのように、店舗スペースを左右、前後、1階と2階など2つに区切り、一方では従来から取り扱っている商品を販売し、もう一方のスペースをイートインに改造して、食事を提供する店舗も増加している。また、統計上に現れない変化として、営業時間の違いもあげられる。かつての食事処は、錦市場に日々の食品の買い回りに訪れた主婦や仕入れ業者を対象にした店舗ばかりであった。そのため、閉店時間も早く、錦市場のほとんどの店舗が閉店する18時前にはほとんどの食事処が閉店してしまっていた。しかし、平成になって新規参入した店舗は、明らかに従来の錦市場とは異なる客層をターゲットにしており、夜間営業をし、酒類の提供も行う点が大きく異なる。

集計においてその他の項目には、土産物、衣料品等に加え、明らかに観光客を対象にした店舗（七味、せんべいなど）や、食の台所にある必然性が低いと判断できる業種（エステティックサロン、クリーニング店など）などの店舗を含む。食事処、その他を合わせ、高度成長期の頃は全体の4分の1しかなかったが、平成になって急速にその割合が増加し、現在は4割を超す店舗が、食事処や観光客

を対象にした店舗である。以上の様に従来の錦市場は「京の台所」と呼ばれるように、京料理の食材の集積地であり、ここに来れば、京都で食する四季折々の季節感豊かな食料がそろう場所であった。しかし、近年ではこうした食材の集積地という側面が薄れ、街が大きく様変わりしている姿が見て取れる。

図 163. 錦市場内店舗の業種の変化



5. 分析

以上の調査結果を総合すると、戦後の錦市場の変容の特性として、以下のことが判明した。

1) . 退出のインセンティブは小さい。

中央市場に移転していったり、従来保持していた錦市場外の店舗に移転する為に、錦市場内の店舗を閉店したケースもあるが、こうした例は全体的には少なく、移動する場合には、ほとんどは錦市場内部で移動する。これは1つには、家族や親戚関係、弟子筋などで共同経営していた店舗を集約する場合も含まれる。しかし、錦市場外部でも営業を継続する為に、主体的に好んで退出する事例というのはあまり見られなかった（表1）。

2) .住居をかねていることが多い

個人情報にも関係しているため、文章中には詳細な記述を避けた事例がほとんどであるが、錦市場内の店舗は、店舗の奥や2階で住居をかねており、店主が今もそこに生活の拠点を置いている場合が多い。代々そこに住んでいる為、近隣の店舗が小学校や中学校の同級生という店主も多く、仕事関係のつながりだけにとどまらない、業種を超えたソーシャルネットワークの基盤がある。

3) .廃業の理由

錦市場では、従来の生鮮食料品の専門店の数がバブル経済崩壊後、急速に減少する。その原因として多く上げられたのが、店主の高齢化や死去に伴う後継者不足である。地価の急速な高騰により、相続税を支払い、さらに家業としての錦市場内での営業を継承する息子や娘を持たないことを悩む店主が多い。その結果、店舗を畳み、物件を売って退出する事例もあるし、所有権は維持したまま、テナントとして賃貸している事例も多い。

なかには、いちどは継承したものの放漫経営により長く続く店舗を倒産させてしまった若手店主もいた。中小企業では、後継者問題が大きな課題となる。

4) .業態変化

2000年以降、新規参入で進出してきた店舗が急増する(表2)。その多くが、京の台所としての生鮮食料品や食文化に関連する商品を販売する店舗ではなく、土産物屋や観光客を対象にした店舗が急増する。長年にわたって錦市場内で営業をしている生鮮食料品店の中にも、店舗の一部を改装して、イートインのコーナーを作ったり、代替わりを機に、本業を廃業して食事処にするなどの業態変化が起きている。

5) .転貸が多い

これも、本文中には詳述を避けた事例がいくつもあるが、調査の結果明らかになったもう1つの事実として、錦市場内の権利関係は複雑である、ということである。当初は、ハーシュマンが述べる様に、多くの店舗が所有権を有しており、長期的にそこで経営を続けている理由はそこにあるのかと考えた。しかし、調査によりすべてを明らかにしたわけではないものの、錦市場内には数名の大地主と呼べる地主が存在し、これらの地主が錦市場内の複数の区画を所有している。聞き取り調査をした範囲では、地主の本業は、錦市場内の店舗である事が多かったが、その他にも、錦市場に店舗を持たない地主も存在する。テナントの場合でも多くの店舗が、何十年にもわたって、同じ地主から賃貸借契約をベースにして同じ場所で営業を続けている。

時には、地主ですら転貸の事実を知らなかったり、転貸の末、権利関係が複雑になって、立ち退きになった事例も複数聞受けられた。しかし、立ち退きを要請されたこれらの店舗の移転先は、やはり錦市場内なのである。

表1. 退出の理由

	S25 1950 -	S35 1960 -	S45 1970 -	S55 1980 -	H2 1990 -	H12 2000 -	H22 2010 -	計
市場内移転		木村(昭和44年)・丸池(昭和44年)・佐竹花店(昭和43~45年頃)	近新(昭和52年頃)	河<生年4年頃>屋井井上(平成7年頃)・村秀(平成11年頃)・ちんたら(平成11年頃)	高麗屋(平成14年頃)	高麗屋(平成14年頃)	レグヤスタ(平成23年)	7
市場外撤退		岸佐(昭和38年頃)・奥崎商店(昭和42年)	津山(昭和48年頃)・京栄(昭和52年頃)・神戸屋(昭和52年頃)	吉田善<平成4年頃>・伊勢久<平成4年頃>	中藤紗本店(平成12年頃)・グランポロニヤ(平成16年頃)	中藤紗本店(平成12年頃)・グランポロニヤ(平成16年頃)	鳥養(平成23年頃)	7
立ち退き		神橋(昭和31年頃)・高木(昭和41年頃)		高田商店(平成5年頃)	高田商店(平成5年頃)	鳥岩(平成12年頃)		6
倒産				船来(平成12年頃)・津之友(平成4年頃)・米秀(平成11年頃)	船来(平成12年頃)・津之友(平成4年頃)・米秀(平成11年頃)			3
廃業	辻熊(昭和34~38年)	中川(昭和35年)・イセ信(昭和43~48年)	花吉商店(昭和56年頃)	松重(昭和56年頃)・鳥幸商店(昭和63年)・ちきりや<平成元年>	本堂西利(平成11年頃)・田中敬<平成10年頃>・木村精肉<平成6年頃>・新屋<平成11年頃>・フティックさふれ<平成4年頃>・青果寺臨<平成7年頃>・馬部商店<平成7年頃>・天塚<平成11年頃>	京栄<平成20年頃>・京田市(平成13年頃)・岡本商店<平成13年頃>・小林薬局<平成13年頃>・山形製<平成20年頃>・サカモトコロッセ<平成21年頃>・伊勢屋<平成21年頃>・道田商店<平成15年頃>・更科<平成17年頃>・理髪カミジ<平成20年頃>・七茶<平成15年頃>	船来<平成23年>	28
業種転換		椿家(昭和44年頃)	大坂屋ーフティックさふれ(昭和52~56年)	島北川ー衣料北川(昭和56年頃)・衣料北川ー北川至徳屋<平成4年頃>・大坂屋ーフワフワショップ<昭和58年頃>・大恩<昭和61年頃>	林治ー林治マンション<スシマス平成4年ーちんたら平成15年こなんまんじや平成4年>	池取<平成14年頃>・跡海ー磯海ビル<フチラハン平成12年頃まつむら平成21年頃>		7
合併・統合	近新庫<昭和34年頃>			島蔵<平成7年頃>	島蔵<平成7年頃>	花つね<平成16年頃>・佐竹花店<平成16年>		3
店名変更	錦松竹亭ー中川精肉<昭和34年頃>	西村茶舗ー錦屋<昭和38年頃>		中川精肉ーむら瀬<昭和63年頃>	かね瀬斎ー軒裏<平成5年頃>・北川至徳屋ー若狭屋高橋<平成9年頃>	BOLOMYAーグランポロニヤ<平成15年頃>・生簗子たなかー香椿堂<平成21年頃>		7
店舗跡小(事業跡小)		まつや<昭和44~47年頃>・カツオ田中<昭和41~43年頃>						4
不明	安井<昭和32年頃>・はきもの市原<昭和33年頃>・細茶屋<昭和34年頃>・小西<昭和34~38年>	中内<昭和35~37年頃>・永春屋<昭和38年頃>・七味家<昭和35~37年頃>・小野<昭和44~47年頃>・遠辺<昭和42年頃>・大友<昭和44~48年頃>・瀬口<昭和44年頃>・小西<昭和34~38年>・京都観光ホテル<昭和43年頃>	浅田<昭和49~51年頃>・丸山<昭和52年頃>・洋服べが<昭和48年頃>・近江<昭和52年頃>	ムーラン<平成5年頃>・三膳屋<平成4年頃>・美術工芸コレクション<平成9年頃>・鳥羽庄<平成4年頃>・池松<平成7年頃>・ナカヤ<平成7年頃>・木村精肉<平成7年頃>	丸池<平成12年頃>・近藤<平成14年>・スシマス<平成14年>・博生堂<平成15年頃>・茶吟シルク北都<平成17年頃>・やま半<平成17年頃>・和カフェベロン<平成19年頃>・ユキ<平成19年頃>・フチラハン<平成20年頃>・1000円ショップ<平成21年頃>・ダナハリス<平成13年頃>・田中<平成14年頃>・美登堂21<平成14年頃>・サンスクリー<平成17年頃>・錦業局<平成17年頃>・美通政<平成19年頃>・錦園<平成19年頃>・ウイラ宮本<平成12年頃>・寺町錦ビル<平成21年頃>	鳥羽庄<平成22年頃>・錦KK<平成24年頃>		44
計	7	19	10	9	29	40	5	119

表2. 新規参入一覧

	S25以前 1950以前	S25 1950—	S35 1960—	S45 1970—	S55 1980—	H2 1990—	H12 2000—	H22 2010—	計
参入	田辺屋(享和3年) 畑野軒(大正元年) 鳥堂(大正3年頃) 大安(大正5年頃) 山手(安政6年頃) 島中(昭和22年) 島中(昭和22年) のとよ(大正5年) 柳屋(昭和5年) 市原 中内 清物大安 新栄 山弥 盛庄 平野 田中常 井上 高田 渡辺 伊勢久 永寿屋 安井 山久 吉岡 近藤 林治 やま半 宇治屋 沢安 近新 神茂	大惣(昭和34年頃) 木村(戦争後) 丸池(戦争後) まつや(戦争直後) かね松(戦後直後) 富貴屋(昭和25年頃) 島羽住(戦争後) 木村(昭和25年頃) 小野(昭和35年頃) 上田(昭和39年頃) かね湯寿(昭和42年頃) 打田清物(昭和44年頃) 山茂堂(昭和44年頃) 河一(昭和44年頃) 山元製菓商店(昭和38年頃) 小西「マルヤ」(昭和38年頃) 精肉中川(昭和38年) 鳥貴酒店(昭和42年) 伊勢屋(昭和43年)	錦大丸(昭和38年頃) 香食品(昭和41年頃) 厚生堂(昭和41年頃) 七味家(昭和33年頃) 若林(昭和33年頃) 浅間(昭和33年頃) 三善屋(昭和33年頃) 小野(昭和35年頃) 上田(昭和39年頃) かね湯寿(昭和42年頃) 打田清物(昭和44年頃) 山茂堂(昭和44年頃) 河一(昭和44年頃) 山元製菓商店(昭和38年頃) 小西「マルヤ」(昭和38年頃) 精肉中川(昭和38年) 鳥貴酒店(昭和42年) 伊勢屋(昭和43年)	丸山(昭和48年頃) 山庄(昭和49年頃) 仲内(昭和49年頃) 河瀬(昭和48年) 喜久屋(昭和48年頃) 洋服ペガ(昭和48年頃) ヴィラ宮本(昭和52年頃) かね秀(昭和52年頃) 小野(昭和35年頃) 上田(昭和39年頃) かね湯寿(昭和42年頃) 打田清物(昭和44年頃) 山茂堂(昭和44年頃) 河一(昭和44年頃) 山元製菓商店(昭和38年頃) 小西「マルヤ」(昭和38年頃) 精肉中川(昭和38年) 鳥貴酒店(昭和42年) 伊勢屋(昭和43年)	ユギ(昭和65年頃) ムーラン(昭和65年頃) 牛波(昭和60年頃) ちきりや(昭和56年頃) 近新(昭和56年頃) 三善屋(昭和59年) 源本商店(昭和61年) 喜ねた(昭和56年頃) フラワーショップ(昭和59年頃) 有次(昭和59年頃) 錦茶局(昭和59年頃)	スシマス(平成5年) こんなんじや(平成4年) コーヒー博通(平成4年) マルシヤ(平成5年頃) 中央栄軒(平成4年) 錦まんじゅう(平成7年) 瓢箪(平成5年頃) BO.ONIYA(平成8年頃) 味どんつき(平成10年) フナラハ(平成12年) 精肉むら裏(平成3年) 河一(平成4年) 美術工芸コレクション(平成5年) むらさき(平成6年頃) 匠十(平成17年) 崖山ちりめん(平成16年頃) 吉の蔵器土合機(平成20年頃) まつむら(平成20年頃) 創作布香秋(平成17年頃) 野村佃煮(平成19年頃) 美谷堂21(平成12年頃) 竹長(平成13年頃) 寺町製ビール(平成13年頃) 京丹波(平成15年頃) ABCマート(平成15年頃) サンクスクリューン(平成15年頃) 権(平成17年頃) 招福屋平成19年頃 豆招福(平成19年頃) 陸養(平成20年頃) 京島美都アトラスクラブ(平成20年頃)	寺小屋(平成15年頃) どんね(平成15年頃) 鎌屋(平成15年頃) まゆシルグ北都(平成5年頃) レッツヤスダ(平成17年頃) pullaldeo(平成17年頃) かりかり園土(平成15年頃) ドラッグセガミ線店(平成17年頃) 和カエペロン(平成19年頃) 元蔵(平成19年頃) 清物西利(分家)(平成21年頃) ひご久(平成21年頃) グランボロニヤ(平成14年) むらさき(平成6年頃) 匠十(平成17年) 崖山ちりめん(平成16年頃) 吉の蔵器土合機(平成20年頃) まつむら(平成20年頃) 創作布香秋(平成17年頃) 野村佃煮(平成19年頃) 美谷堂21(平成12年頃) 竹長(平成13年頃) 寺町製ビール(平成13年頃) 京丹波(平成15年頃) ABCマート(平成15年頃) サンクスクリューン(平成15年頃) 権(平成17年頃) 招福屋平成19年頃 豆招福(平成19年頃) 陸養(平成20年頃) 京島美都アトラスクラブ(平成20年頃)	しずく(平成29年) おちやのこさい(平成24年頃) ひだまりのなま(平成24年) アーバンリサーチ(平成23年) 京都総領(平成24年) ドーナツカフェ花よりキヨエ(平成24年) 錦まるん(平成22年) 京・月神庵(平成23年)	9 180
計	62	8	12	22	41	9	180		

6. 考察

本研究では、京都を代表する食経済の中心地である錦市場内部の組織変化について、住宅地図をもとにして、業態変化とその要因を詳細な聞き取り調査に基づき明らかにした。

歴史的商店街の維持発展について、ハーシュマン仮説に基づき、錦市場における退出を調査した結果、長年錦市場内で営業してきた店舗は、あまり他所に退出せず、移転を余儀なくされた場合にも、錦市場内で新たな営業場所を求める。商店街のいくつかの店舗は、商店街の1カ所から別の箇所へ移転した。なぜ彼らは「退出」せず、錦市場内に留まろうとするのか。錦市場は従来卸売を中心にした店舗が集合しているため、ここでなくても営業ができる可能性は高い。錦市場内に留まる事には、経済合理性を超えるようなメリットが存在するのだろうか。

錦市場はその長い歴史の中で、昔は廃業して空き店舗になったところに新規入居する店舗を共同で探し、審議したり、昭和40年代に近隣に大型スーパーの進出が持ち上がった際にも、共同でお金を出し合い、予定地を買い上げてその進出を阻止してきた経緯がある。これは、錦市場に対する各店主の Voice の手段としてなされてきた。

同時に、近年になって後継者不足による退出（廃業）が増加してきた。それが特に顕著に表出するのが、2000年代以降である。ちょうどこの時期、錦市場に客足が戻り始めた時期とも重なるが、それは以前とは異なる観光客という客層であった。

これらの観光客の増加を狙って、同時期から観光客相手の店舗の新規参入が急増した。しかし、これらの店舗は、錦市場に対する Loyalty を持たない為、「京の台所」としてのイメージにフリーライドする可能性が高い。

こうした変化は、後継者不在により退出した店舗の空きを埋める効果はあったものの、歴史的商店街としての錦市場の維持発展や革新にはどのような意味をもたらすのであろうか。

現代において、錦市場が新規参入のテナントによるフリーライダー的な行動を防ぎ、店舗の Loyalty を高めるには、どのような手段が考えられるのか。

これが今後、錦市場が伝統を守り革新を取り入れていく上での鍵となるであろう。

現在、錦市場への参入希望者は多い。錦市場商店街組合では、空き店舗への入居に対して事前に入居希望者が登録し、審査して入居者を決める制度を京都市と協力して策定した。「にぎわいプロジェクト」と名付けられた本制度を利用して入居する場合、審査に決め手はテナント・ミックスと既存店との差別化である。新規参入した店舗の店主が、以下のようにコメントしている。

「最初は、錦市場全体、という目で見えていなかった。でも、誘われて、御神輿（祇園祭の西御座に参加するうちに、青年会の人と仲良くなり、青年会の活動に参加するようになった。」

錦市場は昭和30年代より祇園祭の西御座にご奉仕している。青年会メンバーを中心として、7月には頻繁に集まり、神輿に向けて士気を高める。京都という土地で、長年続いてきた祇園祭の御神輿にご奉仕するという行動は、長年生活をともにしてきたというソーシャルネットワークだけで

なく、次代を担う若手経営者のソーシャルネットワークの構築におおいに機能している。それが Loyalty の構築にも寄与していると考えられる。

以上の様に、今回の調査から、錦市場の組織文化について、Loyalty に寄与する経済合理性を超える要因を探る1つの切り口が見えたともいえる。今後は、この点についてさらに深く調査する事で、深層的な Loyalty 構築メカニズムについて探っていききたい。

【謝辞】

本調査の錦市場店舗業種変化に関するフィールドワークは、井村ゼミ3年生奥田真由子、若松昌平、茂籠葉月、石川敦啓、片山航の5名と共同して実施した。調査においては、錦市場で営業する各店舗だけでなく、特に古くから錦市場内に住居を構え、営業する錦市場内の店主の皆様からの協力なくては、50年以上も前に遡った店舗の実態調査などは到底なし得なかった。古い話を思い出してくださるだけでなく、資料を引っ張りだしたり、ヒアリングの後で、知人や周りの店舗に問い合わせをして調べて教えてくださる等、大変好意的に調査に参加して下さった。今回の調査は、錦市場の歴史的商店街の重要性にも関わらず、変化を記す史料がないことから史料構築を目的としてスタートした。このタイミングでなければなし得なかったであろう。ご協力くださった錦市場商店街各店舗のご店主の皆様には、心から感謝したい。

【参考文献一覧】

- 新雅史（2012）『商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道』, 光文社.
- 『婦人生活』, 婦人生活社, 1984 年, pp12-13.
- 石原武政（2006）『商店街の外部性とまちづくり』, 有斐閣.
- 小松かおり（2007）『沖縄の市場＜マチグワー＞文化誌 シシマチの技法と新商品から見る沖縄の現在』, ボーダーインク.
- 『京都市中京区住宅地図』昭和31-平成22年, ゼンリン.
- 『マダム』, 鎌倉書房, 1981 年, pp66-71.
- 『日旅』, 日本旅行, 1983 年, pp16-19.
- 西郷真理子（2011）『まちづくりマネジメントはこう行え』, NHK 出版.
- 『太陽』, 平凡社, 1982 年, pp10-21, pp24-31, pp34-71.
- 『TOKK』, 阪急コミュニケーション, 1980 年, pp18-19.
- Hirschman, AO（1970）, Exit, voice, and Loyalty: Responses to Decline in Firms, Organizations, and States, Harvard University Press. (矢野修一訳『離脱・発言・忠誠—企業・組織・国家における衰退への反応』ミネルヴァ書房, 2005 年.)

Organizational Evolution of Historical Market Mall in Kyoto: Dilemma in Revitalization and Inheritance of Tradition

Naoe Imura

ABSTRACT

This paper researches on the evolutionary changes in Nishiki Ichiba Market Mall. Nishiki Ichiba Market Mall is in the center of Kyoto city. It is about 390m long. Many shops wholesale good quality local vegetables, meat, fish for famous restaurants in Kyoto. This market mall is different from local market mall, because it is called as the “representative of Kyoto kitchen.” It is historically, economically and culturally important for Kyoto society. However, many sight seeing visitors visits this mall, as many shops changes their business to sell them goods or meals. This research considers how it changed and how it can preserve and inherit as the “representative of Kyoto kitchen” culture to the next century.

